

## ハシドイ *Syringa reticulata* (Blume) H.Hara

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。西南日本ではとびとびに分布する樹木で、愛知県でも生育地が局限されている。

### 【形態】

落葉性の小高木。高さ 6～7m になり、樹皮は横に皮目があってサクラに似る。葉は対生し、長さ 1～2cm の柄があり、葉身は広卵形～卵形、長さ 6～10cm、幅 5～6cm、先端は急に鋭尖頭、基部は円形または浅い心形となり、全縁、表面は無毛、裏面は短毛があり、中肋基部近くに多い。花期は 6～7 月、花は両性で、新枝先端の円錐花序に多数密につき、白色、花冠は 4 裂し、直径約 5mm である。蒴果は狭長楕円形、長さ 15～20mm、やや湾曲し、熟すと 2 裂する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊根（小林 31348）、東栄（芹沢 81779）。

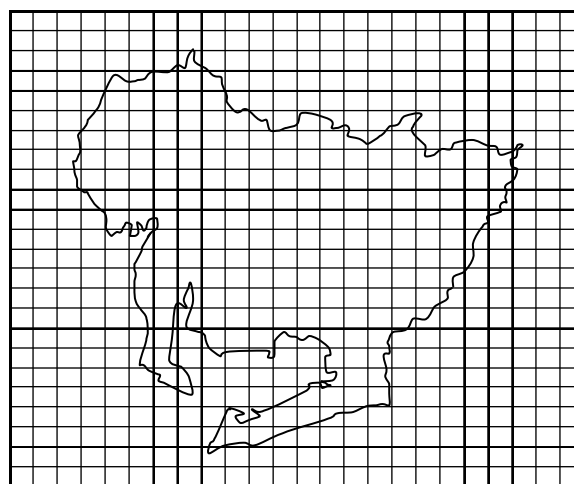
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

温帯域の林縁などに生育する。愛知県では、山すその崖地や急傾斜地の林縁部に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は限られているが、そこでは比較的まとまって生育している。現在のところよく開花するが、道沿いのものは道路の拡幅などで失われるおそれがある。

### 【保全上の留意点】

本種の場合、生育地の林を伐採すれば影響は大きいですが、伐採せずに放置してもそのうちに他の樹木に被陰されて衰退すると思われる。適度に部分的な伐採を行い、さまざまな発達段階が混在する里山の二次林を全体として保全することが必要である。

### 【特記事項】

東栄町には、マンシュウハシドイ var. *mandshurica* (Maxim.) H.Hara にあたる葉がほとんど無毛の個体も生育している。

### 【関連文献】

保木本 I p.85、平木本 II p.178、SOS 旧版 p.70。

イヌセンブリ *Swertia diluta* (Turcz.) Benth. et Hook.f. var. *tosaensis* (Makino) H.Hara

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい、湿地性の植物である。

【形態】

1年生または越年生の草本。茎は直立してしばしば基部から分枝し、高さ10～30cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は倒披針形、長さ2～5cm、幅4～10mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は10～11月、花は茎の上部の枝先にまばらな円錐状につき、花冠は白色で淡紫色の条があり、直径約15mm、5裂し、裂片は披針形で長さ8～10mm、基部に2個の蜜腺があり、そのまわりに長い毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部(小林 29340)、作手(芹沢 53725)、新城(加藤等次 4170)、豊川宝飯(小林 40337)、豊橋北部(芹沢 68836)、豊橋南部(小林 40398) 田原赤羽根(芹沢 57918)、渥美(小林 49147)、豊田北西部(芹沢 81159)、三好(芹沢 81156)、岡崎北部(安達史幸 s.n.)、岡崎南部(本多さおり 1124)、幡豆(芹沢 71388)、日進長久手(半田多美子 2874)、常滑(芹沢 77747)、小牧(村松正雄 17276)、春日井(山田果与乃 534)、名古屋北部(鳥居ちよ子 2412)。ただし一部の区画では、すでに絶滅しているかもしれない。その一方で三好は以前にはなかったはずの場所で、近年新たに形成された群落と思われる。

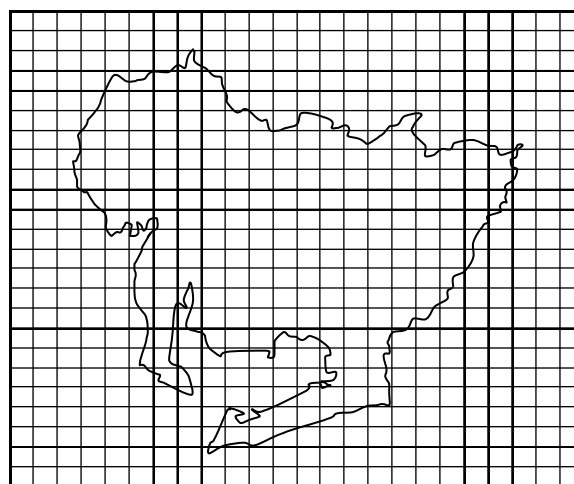
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ため池の周辺、谷戸田の周辺などの湿った草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では、注意して探索すればまだあちこちに生育しているが、どの場所でも個体数は少ない。開発やため池の改修、谷戸田の放棄、草刈りの停止による大型草本の繁茂などにより、減少傾向にある。公園整備によって絶滅した例もある。幡豆町では、生育地の谷戸田が空港埋め立て用の土砂を採取するため買収された。土砂採取事業は諸般の事情により中止されたが、結果的に谷戸田は放棄され、大型草本が繁茂して本種は消失した。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地(いわゆるボタ)は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。

【特記事項】

センブリに似ているが苦味がなく薬用にならないので、イヌセンブリという。センブリと異なり、湿地性の植物である。

【関連文献】

保草本 I p.216、平草本Ⅲp.35、SOS 旧版 p.71+図版 23、環境庁 p.512。

**ガガブタ** *Nymphoides indica* (L.) O.Kuntze

**【選定理由】**

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向が著しい水草で、愛知県においても激減している。

**【形態】**

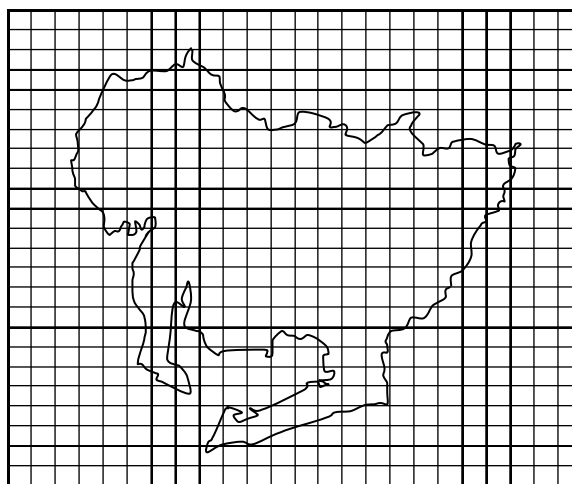
多年生の水草。茎は細くて長く、1~3個の葉をつける。葉柄は長さ1~2cmで、基部はやや耳状になり、花序の基部を抱く。葉身は水面に浮かび、卵状円形で直径7~20cm、基部は深く湾入し、辺縁は全縁である。花期は7~9月、花は葉柄の基部に数個から多数束生し、葉身の湾入部から水上に出て開く。花冠は白色で、直径約15mm、5裂し、裂片の内面に長い毛がある。夏の終わりから秋にかけて、葉柄の基部にバナナの房状の殖芽を形成する。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

豊田北西部(芹沢 77969)、刈谷知立(芹沢 82026)、日進長久手(芹沢 62252)、豊明東郷(辻 敬一 135)、大府東浦(渡邊麻子 665)、常滑(中井三従美 7)、名古屋北部(芹沢 77583)、名古屋南東部(渡辺幸子 5444)、知多南部(美浜町道士池, 相羽福松 172, 1979-8-16)で採集された標本もある。東三河では、豊橋北部(金田, 恒川敏雄 s.n., 1963-6-16, TMNH)、田原赤羽根(野田村, 鳥居喜一 20578, 1949-10-2, HNSM)で採集された標本はあるが、現存を確認できない。また濃尾平野部でも、海部西部(津島町, 沢井輝男 s.n., 1932-8-20)で採集された標本はあるが、現存を確認できない。ただし濃尾平野の岐阜県側や三重県側には、現在でも生育している場所がある。

要配慮地区図



**【国内の分布】**

本州、四国、九州。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、アフリカ、オーストラリア。

**【生育地の環境 / 生態的特性】**

平野部や丘陵地の池沼に生育する浮葉植物である。愛知県における現在の生育地は、いずれも浅い丘陵地か、それに接した位置にあるため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

20年ほど前までは、尾張、西三河のため池では最も普通に見られる水草の一つであったが、ため池の改修や水の汚れにより急激に減少し、現在では特定の場所で見ることができなくなってしまった。ただし残存している場所では、個体数は近年増加傾向にあることが多い。強力な除草剤が使用されなくなったことが、回復の原因ではないかと思われる。その一方で、外来水草との競合により消滅することもある。名古屋市守山区大森雨池では池一面に生育していたが、投入されたボタンウキクサが増殖して水面を覆い、その後ボタンウキクサは消失したが本種も全く見られなくなってしまった。

**【保全上の留意点】**

除草剤が使用されなくなっても、水質が過度に富栄養化すれば生育できない。生活排水の流入を回避し、生育地のため池の水質を維持することが必要である。本種のような植物が突然急激に増加するのは、水質悪化に対する「最後のあがき」であることが多く、決して歓迎できる事態ではない。

**【特記事項】**

彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 7 に掲載されている。

**【関連文献】**

保草本 I p.213、平草本 III p.36、SOS 旧版 p.72 + 図版 21、環境庁 p.513。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.140. 文一総合出版, 東京。

## クサナギオゴケ *Cynanchum katoi* Ohwi

### 【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に希少な植物で、愛知県が基準標本産地である。

### 【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 30~100cm、大きい個体では上部がややつる状に伸びる。葉は小さい個体では茎の上部、大きい個体では茎の中部に集まり、対生、長さ 5~10mm の柄があり、葉身は卵状披針形、長さ 8~17cm、幅 3~5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形、全縁、質は薄くて脈上に短毛がある。上部のつる状の部分につく葉は小形になる。花期は 5~6 月、花序はまばらに分枝し、全体として大きい円錐花序となり、小花柄は細く、花冠は淡紫色で直径 6~9mm、5 裂する。袋果は披針形、長さ 4~5.5cm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

新城（芹沢 61526）、豊川宝飯（小林 37537）、御津（鈴木美恵子 72）、豊橋北部（芹沢 61510）、旭（塚本威彦 739）、瀬戸尾張旭（芹沢 77380）、犬山（芹沢 69580）、春日井（村松正雄 12759）。小牧（野口、村松正雄 17310、1997-10-25）にもあったが絶滅した。名古屋南東部（天白村、井波一雄 s.n., 1941-7-15, CBM134868）で採集された標本もある。

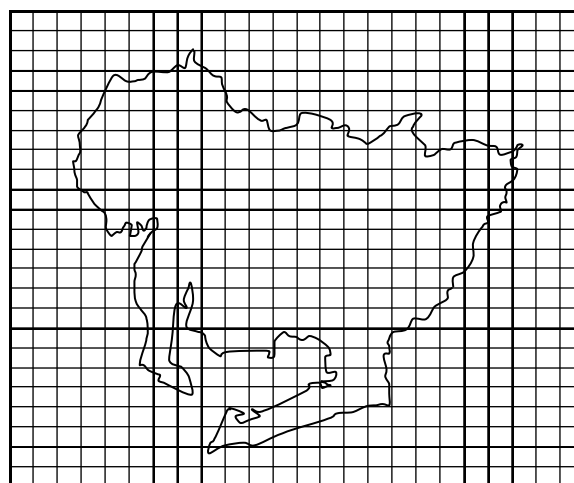
#### 【国内の分布】

本州（関東、東海、近畿地方）、四国。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地や低山地の落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。造林地内に生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

県全体では準絶滅危惧と評価されたが、西三河は旧旭町以外では確認されておらず、尾張でも生育地が少なく、これらの地域では保全の重要度が高い。個体数も、犬山に小群落があるほかは散発的に見られるだけである。東三河南部では比較的多いが、一部の自生地は開発により消滅している。

### 【保全上の留意点】

生育地のほとんどは、いわゆる里山の二次林である。適度に部分的な伐採を行い、さまざまなステージが混在する里山の二次林を全体として保全することが必要である。

### 【特記事項】

本種は、品野村（現・瀬戸市）で加藤秀次郎氏によって発見され、熱田神宮の草薙の剣に因んで「クサナギオゴケ」と命名された。花が緑白色のものは、シロバナクサナギオゴケ *form. albescens* (Honda) Ohwi と呼ばれる。愛知県では、シロバナクサナギオゴケの方が多く見られる。

### 【関連文献】

保草本 I p.209、平草本 III p.42、SOS 旧版 p.73+図版 5、環境庁 p.515、SOS 新版 p.74,76。

コイケマ *Cynanchum wilfordii* (Maxim.) Hemsl.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

つる性の多年生草本。太い根茎がある。茎は淡緑色で長く伸び、切ると白い乳液が出る。葉は対生し、長さ 2~5cm の柄があり、葉身は円心形、長さ 5~10cm、幅 4~8cm、先端は急に鋭くとがり、基部は深い心形、辺縁は全縁、脈上に短毛がある。花期は 7~8 月、花序の柄は葉柄より短く、小花柄は長さ 7~10mm、花冠は淡黄緑色で 5 裂し、裂片は斜開し、3 角状卵形、長さ約 3mm である。袋果はほとんど単生し、長さ 8~13cm、幅約 1cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 52557)、稲武 (日比野修 4603)、鳳来北東部 (堀田喜久 2455)、豊川宝飯 (小林 79698)、豊橋北部 (小林 66702)、小原 (日比野修 2595)、知多南部 (花井隆晃 2167)。

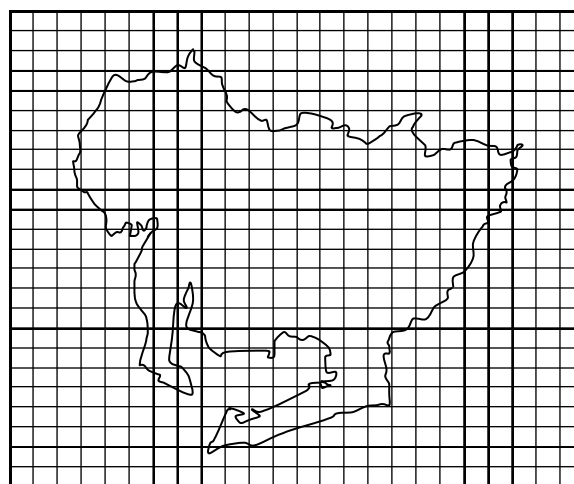
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

林縁や明るい林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、知多南部以外はどこも個体数が少ない。遷移途中のやや不安定な場所に生育しているため消長も著しく、再度同じ場所に行っても確認できないことがある。

【保全上の留意点】

適度に伐採を行い、さまざまなステージが混在する二次林を全体として保全することが必要である。知多南部は、ていねいに調査してみるとあちこちに生育している。攪乱された場所に幼植物が生育していることもある。

【特記事項】

イケマ *C. caudatum* (Miq.) Maxim.からは、標高の低い場所に生育していることのほか、葉の基部がやや耳状になることで、花がなくても区別できる。

【関連文献】

保草本 I p.206、平草本III p.40、SOS 旧版 p.73。

## キクムグラ *Galium kikumugura* Ohwi

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。愛知県では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。茎はやわらかく、斜上して長さ 20～40cm になる。葉は 4 枚輪生し、楕円形～狭倒卵形、長さ 6～15mm、幅 3～8mm、先端は円頭または鈍頭で短く尖り、辺縁に上向きの剛毛がある。花期は 5～6 月、枝先や葉腋から花序を出し、1～3 個の花をつける。小花柄はほとんどないものから 5mm くらいのもので長さが不同で、その基部に 1 個の披針形の苞がある。花冠は白色で 4 深裂し、直径約 1mm である。果実は楕円形で、上向きに曲がった毛がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

鳳来北東部（小林 51439）、作手（小林 51500）、江南丹羽（小林 68963）、名古屋北部（鳥居ちゑ子 2303）、尾西（渡辺幸子 2660）、祖父江（渡辺幸子 4690）。犬山（犬山城、沢井輝男 s.n., 1934-8-14）で採集された標本もある。

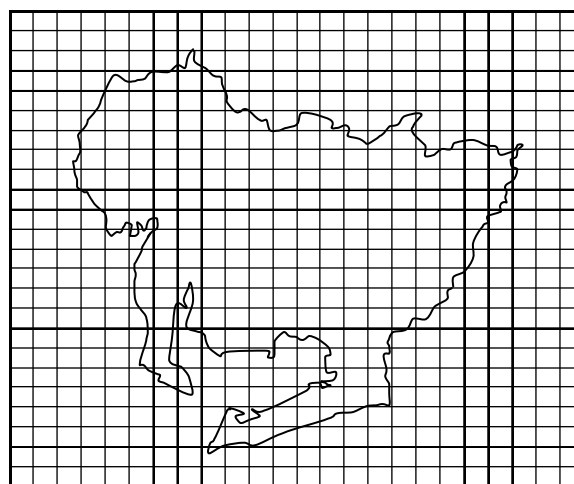
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林縁などに生育する。ただし愛知県の場合、名古屋北部は名古屋城、江南丹羽、尾西、祖父江は木曾川の河川敷である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○		○	
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

二次林や造林地の林縁、林内などに生育している。特別な環境の場所に生育しているわけではなく、それでいて生育地が少ない植物である。造林地の場合は、手入れ不足で林床の光条件が悪化し、衰退傾向にある。

### 【保全上の留意点】

間伐など、適切な林地の手入れが必要である。

### 【特記事項】

目立たない植物なので、他に自生地がないか、今後更に注意して探索する必要がある。花序に小さい苞があることがよい特徴である。

### 【関連文献】

保草本 I p.112、平草本 III p.54、SOS 旧版 p.74。

ルリミノキ *Lasianthus japonicus* Miq.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の低木で、伐採等により生育地が減少している。

【形態】

常緑性の低木。高さ 1~1.5m になる。葉は対生し、長さ 5~15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 7~15cm、幅 2~4cm、先端は鋭尖頭、基部は鋭形、やや厚い革質で全縁、表面は無毛で光沢があり、裏面脈上に短毛が散生する。花期は 5~6 月、花は葉腋から出る短い集散花序に 2~4 個つき、下向きに咲く。花冠は白色で高杯形、長さ約 1cm、先端は 5 裂し、裂片は卵形で鈍頭、長さ約 4mm である。果実は液果で球形、直径約 6mm、晩秋にりり色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（小林 43420）、鳳来北東部（芹沢 82573）、鳳来北西部（小林 55230）、新城（小林 55168）、豊川宝飯（芹沢 82613）、岡崎南部（芹沢 69235）。

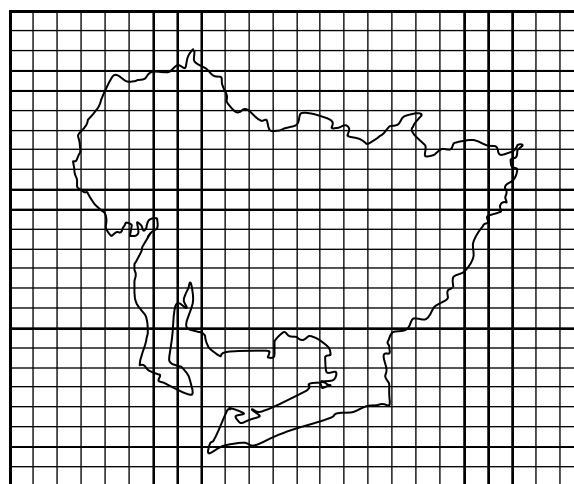
【国内の分布】

本州（東海地方、紀伊半島、中国地方）、四国、九州、琉球（沖縄島）。

【世界の分布】

日本、台湾北部、中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の照葉樹林や二次林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河では数カ所に生育している。東三河以外では岡崎南部の山中八幡宮社叢に生育しているだけである。この場所は、県の自然環境保全地域として保全が図られている。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。社寺林に生育している場合は、日常的には比較的安全であるが、社殿改修などの際に伐採されることがあるので、注意が必要である。

【特記事項】

和名は、果実の色による。

【関連文献】

保木本 I p.58、平木本 II p.202、SOS 旧版 p.74、SOS 新版 p.71,73。

ミズタバコ *Trigonotis brevipes* (Maxim.)Maxim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 1。沢沿いに生育する植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は軟質で高さ 10~40cm になり、まばらに圧毛がある。葉は互生し、下部のものは有柄で上部のものは無柄、葉身は楕円形、長さ 1.5~4cm、幅 1~2cm、先端は円頭~鈍頭である。花期は 5~6 月、花序は茎の上部に 1~5 個つき、先はぜんまい状に巻き、花が咲くにしたがって伸びる。花は密に多数つき、小花柄はごく短く、花冠は淡青紫色で直径 2.5~3mm である。分果は長さ 1mm 程度、黒褐色で平滑、光沢がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山(芹沢 69593)。愛知県ではここだけで、他の区画ではまだ確認されていない。全国的にはそれほど希少な植物ではなく、隣接する岐阜県美濃地方でもあちこちに生育している。

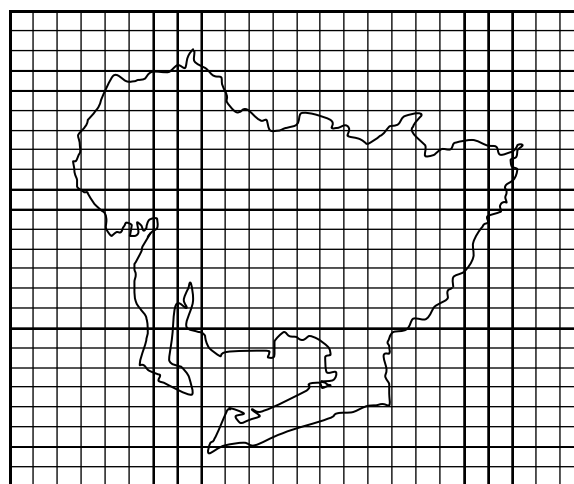
【国内の分布】

本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の溪側の水湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

犬山の 2 カ所に生育しているが、そこでは個体数は比較的多い。大規模な開発等がなければ、現状のまま存続すると思われる。

【保全上の留意点】

多少の攪乱には耐えられる植物であるが、生育地とその上流の森林を保全し、沢沿いの自然状態を維持することが望ましい。

【特記事項】

タバコ(田平子)は耕起前の水田にロゼット葉を拡げる草という意味で、この場合はキュウリグサのことである。

【関連文献】

保草本 I p.196、平草本 III p.65。



イワダレソウ *Lippia nodiflora* (L.)L.C.Richard et Michx.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。海岸の砂地に生育する植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は長く砂上をはい、節から根を出す。葉は対生し、葉身は倒卵状楕円形、長さ 1～4cm、幅 5～18mm、上半分にあらわな鋸歯があり、基部はくさび形に細まって短い柄があり、質は厚く、圧毛がある。花期は 7～10 月、葉腋から出た葉よりも長い柄の先に、円柱状で長さ 0.8～2cm の総状花序を 1 個ずつつける。苞は扇形で長さ約 2.5mm、先端は凸出する。花冠は紅紫色、やや唇形で、直径約 2mm である。分果は広倒卵形、長さ約 2mm、外皮はややコルク化する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部（小林 70749）、田原赤羽根（村松正雄 11918）、渥美（芹沢 70157）。渥美半島の太平洋側に点在しているが、他では確認されていない。

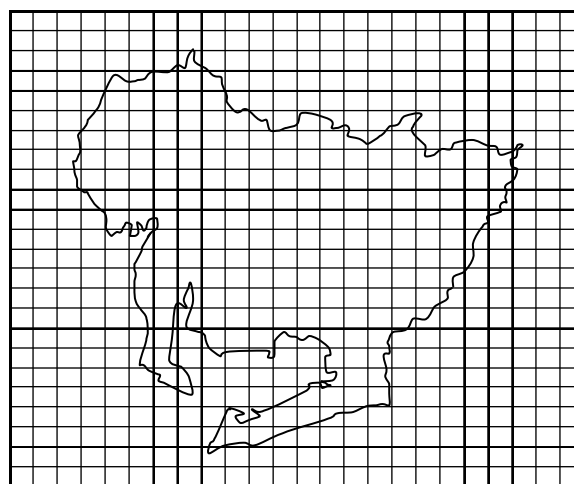
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

世界の熱帯～亜熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の砂地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少ないが、ある場所ではしばしば茎を長く伸ばし、よく生育している。観光開発等による大規模な生育地の破壊がなければ、当面は存続するものと思われる。

【保全上の留意点】

砂浜や砂丘を、本来の状態のまま保全することが必要である。

【特記事項】

「イワダレソウ」の名はあるが、通常岩場から下垂するようなことはない。

【関連文献】

保草本 I p.193、平草本 III p.69。

## タニジャコウソウ *Chelonopsis longipes* Makino

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。山地性の植物で、愛知県では限られた範囲だけに生育しており、個体数も多いものではない。

### 【形態】

多年生草本。茎は下部が直立して上部は斜上し、高さ 50~100cm、開出する粗い毛があり、多くは紅紫色をおびる。葉は対生し、長さ 5~10mm の柄があり、葉身は広披針形または狭倒卵状長楕円形、長さ 8~15cm、幅 2.5~5cm、先端は鋭尖頭、基部は細まって耳状心形となり、質はやや薄く、両面の特に脈上に毛がある。花期は 9~10 月、花は上部の葉腋から出る長さ 2~3cm の柄の先に 1~3 個つき、がくは花時で 7~8mm、果時には球鐘形で長さ 15~18mm となる。花冠は紅紫色、長さ 3.5~4cm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

新城(小林 55051)、豊橋北部(小林 39749)。

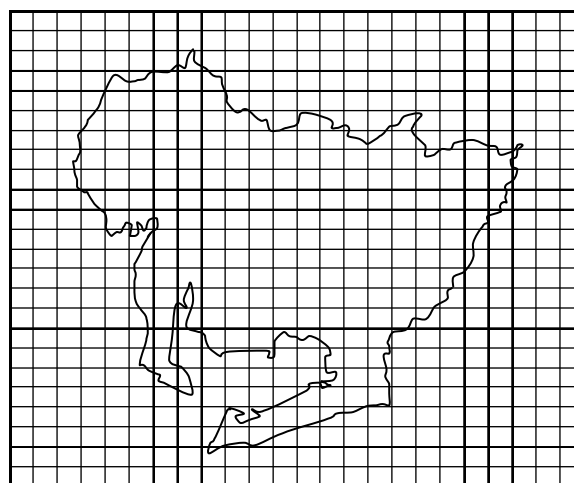
#### 【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の沢沿いの林内や林縁に生育する。二次林内のほか、造林地や伐採跡地などにも多少は生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、その中では点在するが、もちろんどこにでもあるというものではない。遷移の進行や造林地の手入れ不足などにより、被陰されて衰退するおそれがある。園芸目的で採取されることもある。

### 【保全上の留意点】

間伐や沢沿いの低木の除去など、林地の適切な手入れが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

花はジャコウソウ *C. moschaeta* Miq. より濃色である。

### 【関連文献】

保草本 I p.178、平草本 III p.89、SOS 旧版 p.76。

シロネ *Lycopus lucidus* Turcz.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。大型の低湿地性植物で、愛知県では生育地が限られている。

【形態】

多年生草本。白色の長い地下茎がある。地上茎は太く、断面は四角形で直立し、高さ 80~120cm、時には 2m 以上になる。葉は多数つき、対生して短い柄があり、葉身は広披針形~狭楕円形、長さ 8~15cm、幅 1.5~4cm、先は鋭くとがり、辺縁には鋭い鋸歯があり、質は硬くて表面に光沢がある。花期は 8~10 月、花は上部の葉腋に集まってつき、花冠は白色で長さ約 5mm、がくは長さ 4~5mm で 5 中裂し、裂片は鋭く刺状にとがる。

【分布の概要】

【県内の分布】

岡崎南部（芹沢 67684）、刈谷知立（芹沢 70285）、安城（中村さとこ 672）、高浜碧南（芹沢 66762）、西尾（中根幸司 1786）、幡豆（芹沢 68686）、大府東浦（中村裕治 835）。県内での分布は、矢作川（古川を含む）と境川の河川敷に限られている。木曾三川下流部にもあってよさそうだが、現在のところ確認されていない。

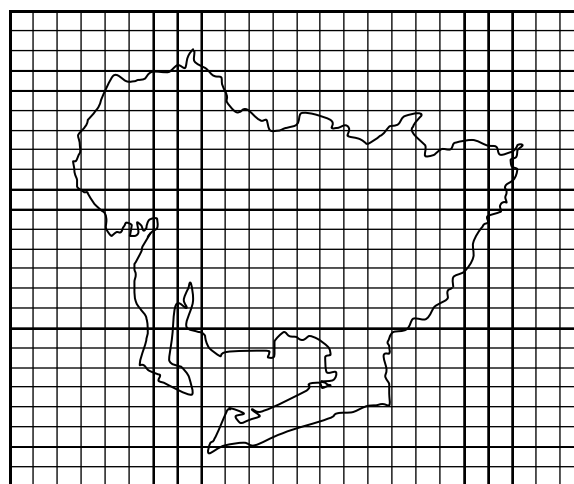
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジアと北アメリカに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷などの低湿地の草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、ヨシやセイタカアワダチソウの繁茂によって全体的に衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

河川敷の植物は、増水などの適度の攪乱を前提として存続してきたものである。ダムなどの建設によって水利用が増加し、その結果河川流量が減少して川床が安定し、同時に生活排水が流入して水質が悪化すれば、長期的な存続は困難である。河川敷の自然を維持するためには、常時それなりの流量を確保することが必要である。

【特記事項】

和名は、白色の地下茎による。

【関連文献】

保草本 I p.171、平草本 III p.83、SOS 新版 p.135,137。

シマジタムラソウ *Salvia isensis* Nakai ex H.Hara

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。湿地または蛇紋岩地に生育する植物で、本地域の固有種である。

【形態】

多年生草本。茎は4角形で直立し、高さ20~80cm、下部には開出する長毛がある。葉は対生し、1~2回羽状複葉、茎の下部に集まることが多い。小葉は卵形で、葉の先端のものが大きく、側羽片はやや小形、辺縁には鈍鋸歯があり、質は一般に薄い、蛇紋岩地のはやや厚く、脈は表面でくぼむ。花期は7~8月、茎や枝の先に長い穂状の花序を作る。花はややまばらに輪生し、がくは長さ5~6mm、花冠は淡青紫色、長さ1cm内外、筒部内面の中央に輪状に毛があり、雄ずいは曲がらず、花外に突き出る。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部(芹沢 59263)、新城(芹沢 56118)、足助(日比野修 3803)、藤岡(芹沢 49413)、豊田東部(芹沢 59318)、豊田北西部(芹沢 82208)、三好(臼井里華 712)、瀬戸尾張旭(芹沢 76010)、日進長久手(芹沢 62737)、豊明東郷(芹沢 59855)、東海知多(芹沢 73354)、半田武豊(岡本久美子 860)、常滑(芹沢 76171)、知多南部(芹沢 56657)、名古屋北部(鳥居ちる子 1014)。名古屋南東部(緑区鳴海、岡田善敏 s.n., 1944-10-10)で採集された標本もある。豊橋市から渥美半島にかけてと岡崎市周辺、犬山市から春日井市にかけてでは発見されていない。

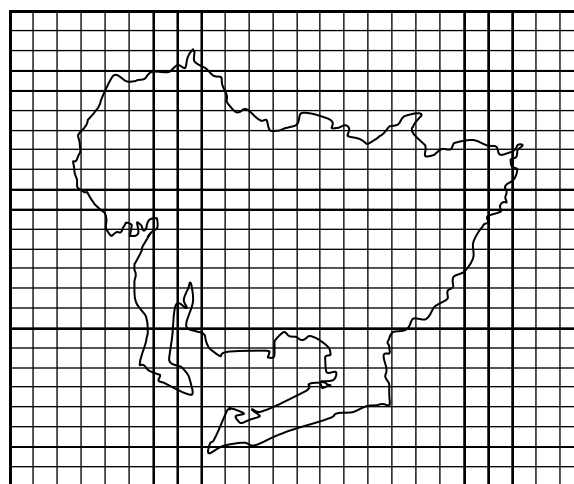
【国内の分布】

本州(岐阜県、愛知県、三重県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

東三河と三重県では、蛇紋岩地の疎林内や半裸地状の場所などに生育する。西三河、東三河と岐阜県では、湧水湿地周辺の林内に生育することが多いが、湿地内の日当たりのよい場所、水田わきの湿った草地などに見られることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河の一部と豊田市から名古屋市にかけての丘陵地には多いが、他では少ない。比較的耐陰性のある植物で、湿地性植物の中では森林化が進行してもかなり遅くまで林内に残存しているが、それでもあまり暗いところでは生育できない。都市近郊であるため開発圧力も強く、日進市岩崎では造成工事で生育地が破壊され消滅した。

【保全上の留意点】

東三河では、草刈りや火入れによって蛇紋岩地の森林化を抑制し、草地状態を維持することが必要である。西三河と尾張では、丘陵地の湧水湿地を、周辺の林を適宜伐採しながら維持することが必要である。

【特記事項】

集団間の遺伝的分化やナツノタムラソウ *S. lutescens* Koidz. との関係について、今後更に検討する必要がある。花の形態は、ナツノタムラソウ類とほとんど異なる。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 7 に掲載されている。

【関連文献】

保草本 I p.168、平草本Ⅲp.81、SOS 旧版 p.77+図版 17、環境庁 p.524、SOS 新版 p.110,112。

ヤマホオズキ *Physalis chamaesarachoides* Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。山地の林縁などに生育する植物で、全国的に減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。茎はよく分枝し、やや細くて軟弱、高さ 30~50cm になる。葉は互生し、長さ 1~5cm の柄があり、葉身は卵形、長さ 5~12cm、幅 2.5~7cm、先端は鋭尖頭、質は薄く、辺縁には少数のあらい鋸歯がある。花期は 8~9 月、葉腋に花を 1 個ずつつける。花は下垂し、花冠は白色で杯形、浅く 5 裂し、直径 7~8mm である。果実は液果で球形、熟すと黄色になり、直径 1cm、がくは果期につぼんだ袋状となって果実を包み、刺状の突起があり、長さ 12~15mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 83431)、設楽東部 (芹沢 63512)、鳳来北東部 (小林 65214)、鳳来南部 (小林 29406)、作手 (小林 58078)、豊橋北部 (小林 70594)、足助 (鈴木万里亜 1188)、豊田北西部 (芹沢 71348)、瀬戸尾張旭 (日比野修 1746)。

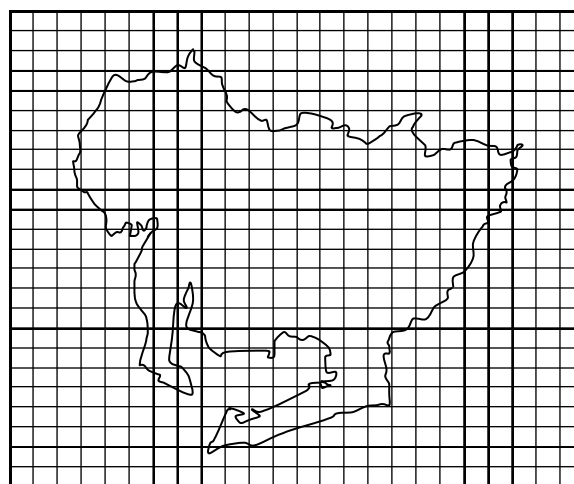
【国内の分布】

本州 (関東地方南部、東海地方、紀伊半島南部)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。林道わきなどの多少攪乱された場所に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。生育状況も山地性の植物としては不安定で、毎年確実に観察できる場所は少ない。

【保全上の留意点】

出現がやや不安定なだけに、効果的な保全策は立てにくい。今まで確認されたことがある場所の自然環境を、全体として保全することが必要である。

【特記事項】

帰化植物のセンナリホオズキ *P. angulata* L. は 1 年生草本で、畑地や路傍に生じ、茎は短く、花は黄白色で、果時のがくに刺状の突起がない。

【関連文献】

保草本 I p.156、平草本 III p.93、SOS 旧版 p.78、環境庁 p.340、SOS 新版 p.31,33。

マルバノサウトウガラシ *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) Yamazaki

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水田雑草である。

【形態】

小型の1年生草本。茎は直立し、軟弱で高さ10~18cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は卵円形、長さ4~10mm、幅3~5mm、全縁で、5~7本の脈がある。花期は8~10月、上部の葉腋に正常花、中部の葉腋に閉鎖花をつける。がくは長さ3~4mm、ほとんど基部まで5裂し、裂片は線状披針形である。正常花の花冠は紅紫色、長さ4mm、唇形、下唇は大きく、中裂片はさらに2裂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北西部(小林 65037)、作手(芹沢 74888)、足助(小林 62711)、下山(芹沢 83596)、豊田東部(小林 62704)。

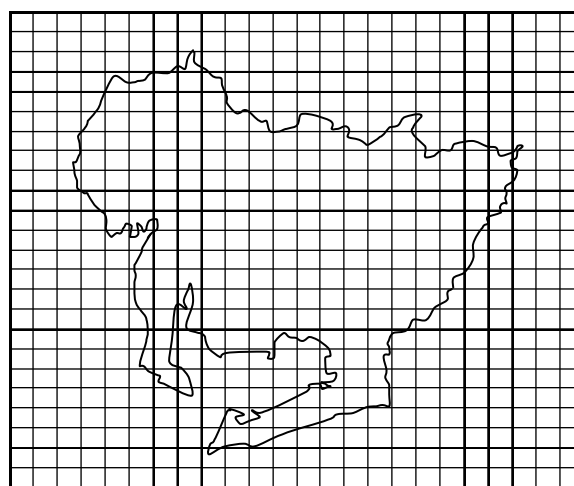
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水田などの湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では、山間部の水田に生育している。ただし、ある1枚の水田で確認できても、その隣の水田にも生育しているとは限らない。耕地整理や除草剤の使用により減少していたが、ごく最近に限れば多少増加傾向にあるかもしれない。

【保全上の留意点】

谷戸田の保全が必要である。

【特記事項】

サウトウガラシ *D. violaceum* (Maxim.) Yamazaki に比べ、葉が丸く、花もやや小さい。小型で目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。注意して探索すれば、更に生育地が確認できると思われる。

【関連文献】

保草本 I p.148、平草本 III p.103、SOS 旧版 p.79、環境庁 p.340、SOS 新版 p.67,69。

## オオアブノメ *Gratiola japonica* Miq.

### 【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水田雑草である。

### 【形態】

1年生草本。茎は肉質で柔らかく、直立して高さ10~20cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は披針状楕円形、長さ1~3cm、幅2.5~7mm、先端は鈍頭、辺縁には鋸歯がなく、無毛、基部は多少茎を抱く。花期は5~6月、花は上部の葉腋に1個ずつつき、多くは花冠が開かない閉鎖花、かくは5深裂し、長さ3~4mmである。通常花の花冠は白色、短い筒型で長さ4~5mm、5裂してやや2唇形となる。蒴果は球形で長さ3~4mmである。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊川宝飯(小林 79315)、豊田南西部(畑佐武司 3807)、三好(畑佐武司 178)、額田(村松正雄 24088)、刈谷知立(芹沢 59118)、安城(堀田喜久 1741)、瀬戸尾張旭(村松正雄 324)、日進長久手(福岡義洋 2219)、豊明東郷(浅野守彦 1311)、常滑(鳥居ちゑ子 1357)、犬山(大宮克美 208)、岩倉西春(鈴木幸子 737)、名古屋南東部(芹沢 82922)、稲沢平和(家田晴俊 224)、海部西部(芹沢 61372)。名古屋北部でも見たことがある。ただし、ほとんどの場所は出現が一時的で、継続して生育する場所は少ない。そのためどの区画でも絶滅したと断定しにくい、刈谷知立、安城などではすでに絶滅した可能性が高い。

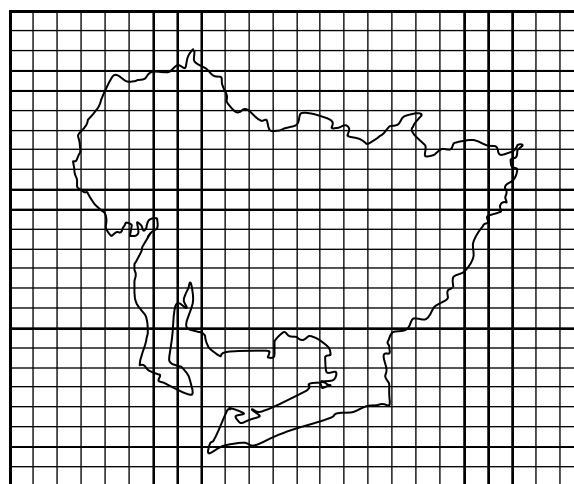
#### 【国内の分布】

本州(宮城県以南)、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウズベク。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

耕起前の水田や休耕田に生育することが多いが、河川やため池の岸などの低湿地に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

尾張には比較的多いが、西三河ではほぼ西部に限られ、東三河では極稀である。生育状況は概して不安定で、一時的にかなり多数の個体が見られることもあるが、確実に観察することは難しい。そのため県内での増減傾向もはっきりしないが、おそらくは耕地整理や除草剤の使用、それに農耕様式の変化により耕起時期と開花・結実期が重なるようになったことなどのため減少しているものと思われる。都市近郊のため、開発による影響も大きい。刈谷知立、名古屋南東部の緑区鳴海町などでは、生育していた水田が宅地化され、見られなくなった。

### 【保全上の留意点】

水田雑草であり、生育状況も不安定であるため、効果的な保全対策は立てにくい。旧来の水田の状態を残す未整理の湿田は、文化財的な価値もあり、少なくとも一部分はできるだけそのままの形で保全する必要がある。

### 【特記事項】

水田雑草は秋に開花するものが多く、本種のように初夏に開花するものは少ない。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 8 に掲載されている。

### 【関連文献】

保草本 I p.147、平草本 III p.102、SOS 旧版 p.79+図版 25、環境庁 p.526、SOS 新版 p.139,141。

スズメノハコベ *Microcarpaea minima* (Koenig) Merrill

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水田雑草である。

【形態】

小型の1年生草本。茎は分枝してはい、長さ5~20cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は線状披針形または狭長楕円形、長さ2~5mm、幅1~2mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は7~10月、花は葉腋に1個ずつつき、がくは筒状鐘形、先は浅く5裂する。花冠は淡紅色、筒状で長さ約2mm、先端は小さく5裂して開出する。果実は蒴果で長楕円形、長さ約1.2mm、がくに包まれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部(小林 65277)、鳳来北西部(小林 59983)、新城(小林 62537)、豊橋南部(小林 54091)、旭(小林 58007)、額田(小林 65053)、安城(堀田喜久 6545)、瀬戸尾張旭(村松正雄 16018)、尾西祖父江(渡辺幸子 3222)。

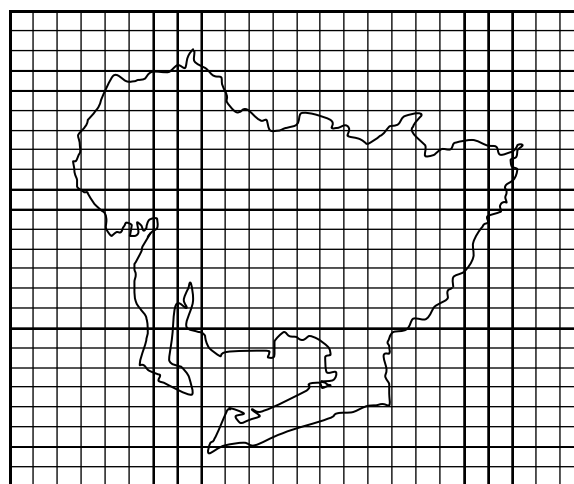
【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、インド、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

水田に生育することが多いが、ため池の岸などに生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○	○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

多くはないが、山間部の水田にも平野部の水田にも見られる。ただし、1枚の水田にあっても、その隣の水田にあるとは限らない。耕地整理や除草剤の使用により減少していたが、ごく最近に限れば多少増加傾向にあるように思われる。その一方で、平野部では水田の宅地化により失われる可能性も大きい。

【保全上の留意点】

水田雑草であるため、効果的な保全対策は立てにくい。旧来の水田の状態を残す未整理の湿田は、文化財的な価値もあり、少なくとも一部分はできるだけそのままの形で保全する必要がある。

【特記事項】

小型で目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。注意して探索すれば、更に生育地が確認できると思われる。

【関連文献】

保草本 I p.149、平草本 III p.103、SOS 旧版 p.79+図版 23、環境庁 p.343。



## ヒキヨモギ *Siphonostegia chinensis* Benth.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。草地性の植物で、愛知県では生育地が限られている。

### 【形態】

半寄生の1年生草本。茎は直立し、上部で分枝し、高さ30～70cmになる。葉はほぼ対生し、葉身は卵形、長さ1.5～5cm、幅1～3cm、羽状に深裂し、下方の裂片はさらに少数の裂片に裂け、基部は狭いくさび状の翼がある柄となる。花期は8～9月、花は上部の枝先の葉腋に1個ずつつき、花冠は鮮黄色で長さ2.5～3cm、唇形、上唇の先は細くなって2裂し、下唇は3裂する。がくは細い筒形、先は5裂し、果時にも宿存して蒴果を包む。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東栄(小林 53701)、稲武(塚本威彦 2466)、蒲郡(小林 79779)、豊橋北部(加藤等次 6426)、渥美(芹沢 80804)、常滑(芹沢 76145)。稲沢平和(大里村, 加藤嘉明 s.n., 1933-8-8)で採集された標本もある。

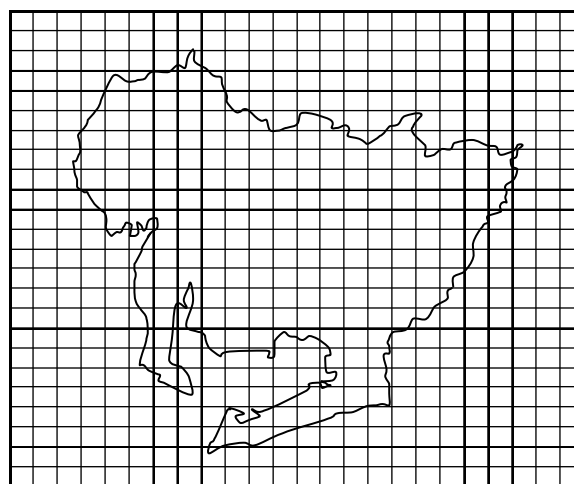
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

日あたりのよい草地に生育する。海岸草地やため池の土手などだけでなく、攪乱跡の半裸地状の場所に見られることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		○
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

常滑では数カ所で確認されており、個体数も比較的多いが、他の区画では少ない。草地の減少に伴い、減少傾向にあるものと思われる。長期的に安定して生育している場所は、渥美(伊良湖岬)だけかもしれない。

### 【保全上の留意点】

半自然草地に生育しているものについては、生育地の地形を保全すると共に、草刈りや火入れにより草地状態を維持することが必要である。

### 【特記事項】

オオヒキヨモギ *S. laeta* S. Moore (636 頁) は、愛知県では本種よりずっと多く見られる。

### 【関連文献】

保草本 I p.136、平草本 III p.114、SOS 旧版 p.80、SOS 新版 p.83,85。

## ムラサキミミカキグサ *Utricularia uliginosa* Vahl

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。湧水湿地の、その中でも特に湿潤な場所に生育する小型の食虫植物で、愛知県では近年減少傾向が著しい。

### 【形態】

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は糸状で、まばらに捕虫囊をつける。地上葉はへら形～倒披針形、長さは柄を除いて2～3mmのものから3cmを越すものまでである。花期は8～9月、花茎は直立し、高さ5～15cm、上部に1～4花をつけ、花には長さ2～8mmの花柄がある。がくは広卵形で長さは花時に2～3mm、膜質、花後4～5mmに伸長して耳かき状の宿存がくとなり、蒴果をつつむ。花冠は淡藍紫色、長さ3～6mm、距は長さ2～3mm、下向きで、先端はやや前方に曲がる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

設楽西部（芹沢 56868）、作手（芹沢 56514）、豊橋北部（芹沢 56298）、田原赤羽根（芹沢 53623）、渥美（芹沢 56328）、藤岡（塚本威彦 353）、豊田東部（芹沢 57097）、豊田北西部（村松正雄 765）、三好（芹沢 63920）、額田（小林 53439）、岡崎南部（芹沢 57433）、瀬戸尾張旭（芹沢 76138）、豊明東郷（伊藤昭康 555）、半田武豊（渡邊麻子 661）、常滑（芹沢 56609）、犬山（芹沢 53745）、春日井（芹沢 54009）、名古屋北部（芹沢 56209）、名古屋南東部（芹沢 56189）。

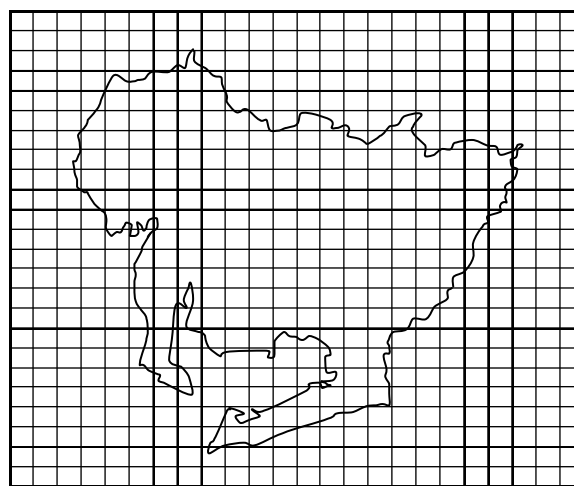
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本から東南アジア、インド、オーストラリアにかけて分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

湧水湿地の、裸地状の場所に生育する。ミミカキグサやホザキノミミカキグサよりも湿潤な場所に多く、しばしば浅い水中に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

ミミカキグサやホザキノミミカキグサに比べればもともとかなり少なく、しかも近年の夏の高温乾燥傾向によってこれら2種以上に大きな影響を受けている。レッドデータブックあいち2001植物編ではリスト外と評価した上で「今後もこの傾向が続けば準絶滅危惧種に移行する可能性がある」と述べたが、危惧は現実になった。

### 【保全上の留意点】

湧水湿地を、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。また、本種の場合は特に湿潤な場所に生育しているので、周辺部の森林を伐採し、水収支の回復や湿地の縮小防止を図る必要がある。

### 【関連文献】

保草本 I p.121、平草本III p.138、環境庁 p.532。

ベニバナツクバネウツギ *Abelia spathulata* Sieb. et Zucc. var. *sanguinea* Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 2。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が少ない。

【形態】

落葉性の低木。密に分枝し、高さ 2m くらいになり、樹皮は灰色である。葉は対生し、短い柄があり、葉身は広卵形～長楕円状卵形、長さ 2～5cm、幅 1～3.5cm、先は鋭尖形で尾状にのび鈍端、基部はくさび形または円形、辺縁にはあらく不規則な鋸歯がある。花期は 4 月下旬～6 月、花は短枝の先端に 2 個つき、がく片は 5 個、へら状倒披針形で長さ 6～8mm、花冠はツクバネウツギより小さく、長さ 1.5～2.5cm、濃赤褐色で、内側に淡紅色と橙色の網目がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 44825)、豊根 (芹沢 82889)、津具 (小林 45699)、設楽西部 (小林 37803)。

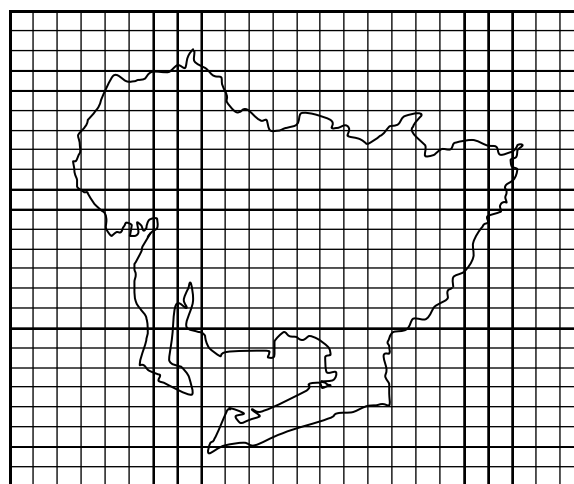
【国内の分布】

本州 (関東地方、中部地方)。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林縁や林内に生育する。基準変種のツクバネウツギ var. *spathulata* と異なり山地性の植物で、丘陵地には見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内での分布は、東北部の山地に限られている。ブナ林や二次林、一部では造林地の林内などに生育しており、どこにでもあるというものではないが、ある場所では生育状態は比較的良好である。

【保全上の留意点】

多少攪乱された場所でも生育できる低木で、林地そのものがなくなれば現状のまま存続するものと思われる。

【特記事項】

「日本の野生植物」木本編Ⅱでは、ベニバナツクバネウツギという和名が使われている。葉の先端が尾状に伸びるので、花がなくても識別は可能である。

【関連文献】

保木本Ⅰ p.26、平木本Ⅱ p.237。

マツムシソウ *Scabiosa japonica* Miq.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 1。草地性の植物で、愛知県では減少傾向が著しい。

【形態】

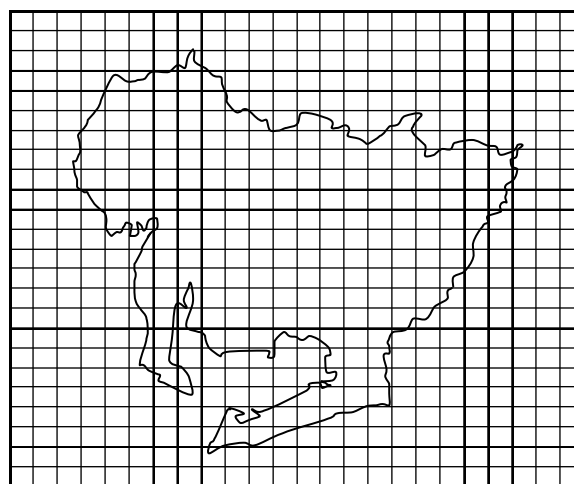
多年生草本。茎は分枝し、高さ 60～90cm になる。根出葉は花時に枯れる。茎葉は対生し、下部のものには柄があり、葉身は長さ 5～10cm、下部や中部の葉の葉身は羽裂し、裂片はさらに分かれて、終裂片は鈍頭となる。花期は 8～10 月、花は青紫色で、多数が集まって直径 3～4cm の頭花となり、基部に線形の総苞片がつく。頭花周辺部の小花は花冠が 5 裂し、外側の裂片は大きく伸び、中心部の小花の花冠は筒状で等形に 5 裂する。果時の頭花は球形で、直径約 1.5cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (芹沢 67245)、津具 (芹沢 67388)、稲武 (瀧崎吉伸 11104)、設楽西部 (芹沢 57045)、鳳来南部 (芹沢 60128)、鳳来北西部 (小林 58030)、作手 (小林 53522)、新城 (芹沢 67037)、蒲郡 (小林 58777)、豊橋北部 (芹沢 68584)、旭 (芹沢 56545)、足助 (芹沢・水野 102)、下山 (芹沢 62817)、小原 (塚本威彦 1653)、藤岡 (塚本威彦 320)、豊田東部 (芹沢 59286)、額田 (福岡義洋 1183)、幡豆 (芹沢 71164)。このほか豊川宝飯 (一宮村本宮山、鳥居喜一 22220, 1931-8-26, HNSM)、豊橋南部 (寺沢町, 小林 23333, 1981-10-18)、豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 805, 1958-7-31) で採集された標本もある。尾張では確認されていない。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境 / 生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。愛知県の場合、山地では尾根などの草地、低標高地では超塩基性岩地にあり、中程度の標高では谷戸田周辺の里草地 (いわゆるボタ) に生育していることが多かった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつては山地から低標高の丘陵地まで連続的に点在していたが、草地の減少に伴い著しく減少している。特に中程度の標高の場所では、ほとんど絶滅状態である。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の里草地は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。また、草地性植物が集中して生育する超塩基性岩地も、次第に森林化が進行している。草刈りや火入れによって、草地状態を維持していく必要がある。

【特記事項】

愛知県では、低地のものほど頭花が小さくなる傾向がある。ミカワマツムシソウとして区別する人もいるが、変異は連続的である。ただし最近では東三河南部の超塩基性岩地以外は低山地でほとんど絶滅状態なので、不連続のように見えてしまう。超塩基性岩地に生育するものは特に頭花が小さく、中には周辺部の舌状花が全くないものもある。

【関連文献】

保草本 I p.100、平草本Ⅲp.148。

ソバナ *Adenophora remotiflora* (Sieb. et Zucc.) Miq.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、上方は傾いて分枝し、高さ 50~100cm になる。茎葉は互生し、長い柄があり、葉身は卵形または広披針形、長さ 5~10cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、質はやや薄く、辺縁に粗い鋸歯がある。花期は 8 月、茎の先に大きな円錐花序を作り、花をまばらに下向きにつける。がく裂片は 5 個あり、披針形で長さ 5~8mm、全縁で開出ししない。花冠は漏斗状鐘形で、青紫色、長さ 2~3cm、先端は 5 裂し、裂片はやや反曲し、花柱は通常花外に出ない。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 52775)、豊根 (小林 46634)、東栄 (小林 39341)、稲武 (塚本威彦 2406)。

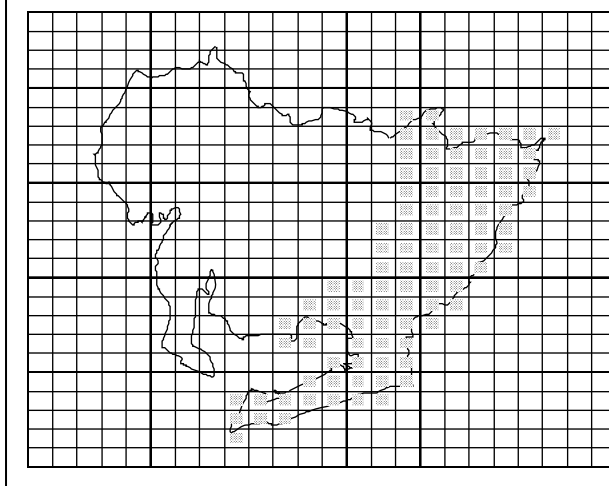
【国内の分布】

本州、四国、九州。長野県まで行けば、比較的多く見られる種類である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の水はけのよい林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

数カ所で生育が確認されているが、どの場所でも個体数は少ない。生育地周辺ではシカの食害が顕在化しており、その影響が拡大すれば絶滅の可能性もある。

【保全上の留意点】

草食獣の個体数調整などを実施し、林床植物の衰退を防止する必要がある。一方で園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、岨地に生育する山菜という意味だと言われている。

【関連文献】

保草本 I p.95、平草本 III p.152。

イワシャジン *Adenophora takedae* Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。分布域の狭い植物で、愛知県はその南西限にあたる。園芸目的の採取により減少している。

【形態】

多年生草本。茎は細く岩場から垂れ下がり、長さ 30~70cm になる。茎葉は互生し、5~15mm の柄があり、葉身は披針形または広線形、長さ 7~15cm である。花期は 9~10 月、花は数個から 10 個が茎の上半部に総状につき、花柄は細く、長さ 2~5cm、がく裂片は 5 個あり、線形で長さ 5~8mm、まばらに小歯がある。花冠は鐘形で、紫色、長さ 1.5~2.5cm、花柱は花外に出ない。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 48071)、豊根 (加藤等次 4152)、東栄 (鈴木 学 3365)、設楽東部 (芹沢 64488)、鳳来北東部 (小林 54705)。

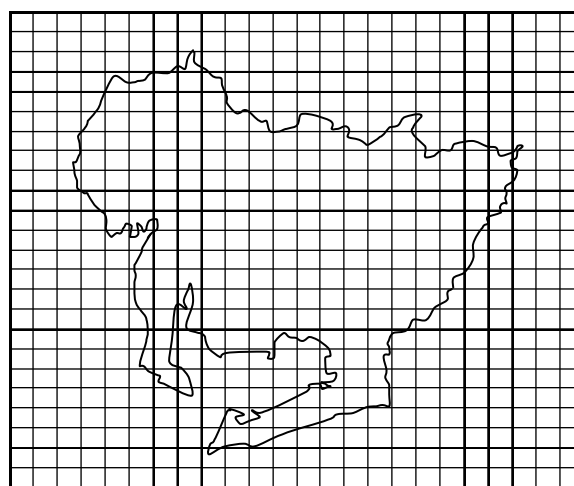
【国内の分布】

本州中部太平洋側 (関東地方西部~愛知県) に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩場に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、花が美しいため園芸目的で採取され、手が届く範囲ではなかなか見られなくなっている。急峻な地形の場所に生育するので全滅することはないと思われるが、少なくなればますます採取され、事実上観察できない植物になってしまう可能性がある。また、手が届かない場所のものは夏の高温乾燥傾向の影響を受けやすく、その点でも衰退が懸念される。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

「シャジン」は漢名の音読みである。

【関連文献】

保草本 I p.93、平草本 III p.151。

キキョウ *Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A.DC. (図版 10)

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい、代表的な草地性植物である。

【形態】

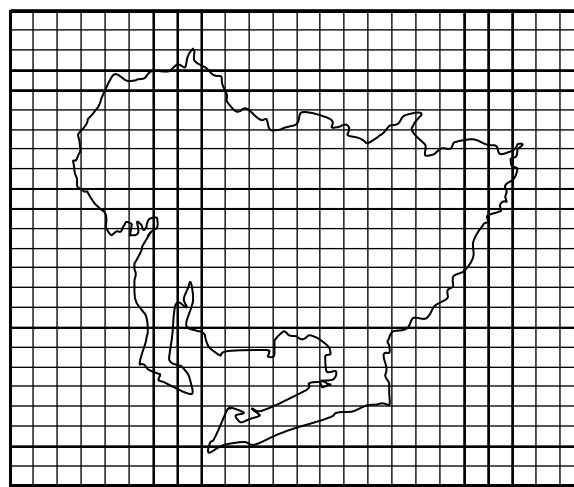
多年生草本。根茎は太い。茎は直立し、高さ 50~100cm になる。葉は茎の下部では対生または 3 輪生、上部では少しずれて互生し、無柄または短い柄があり、葉身は狭卵形、長さ 4~7cm、幅 1.5~4cm、先端は鋭頭、辺縁に小さい鋭鋸歯があり、表面は無毛、裏面は短毛があつて粉白色をおびる。花期は 7~8 月、茎の先端部に 1~数個の花をつけ、花冠は青紫色で広鐘形、先は 4~5 裂し、直径 4~5cm である。雄ずいは 5 個で、雌ずいより先に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根(加藤等次 3462)、稲武(小林 47165)、鳳来南部(芹沢 60126)、新城(芹沢 72228)、豊川宝飯(芹沢 66962)、豊橋北部(芹沢 67034)、田原赤羽根(小林 45894)、渥美(小林 46031)、旭(芹沢 62504)、足助(新井文子 854)、下山(芹沢 62353)、小原(芹沢 56581)、藤岡(塚本威彦 268)、豊田東部(畑佐武司 4525)、豊田北西部(畑佐武司 4683)、三好(臼井里華 708)、額田(福岡義洋 1028)、岡崎北部(河江喜久代 98)、岡崎南部(芹沢 70992)、高浜碧南(堀田喜久 5390)、幡豆(芹沢 70200)、瀬戸尾張旭(芹沢 74804)、日進長久手(芹沢 76313)、豊明東郷(浅野守彦 576)、東海知多(芹沢 76040)、半田武豊(岡本久美子 759)、常滑(芹沢 76146)、知多南部(芹沢 82122)、犬山(松田ちか子 637)、春日井(山田果与乃 488)、名古屋北部(鳥居ちる子 1986)、名古屋南東部(伊藤晶子 140)。作手(小林, 2000)、蒲郡、御津(小林, 2004)、安城(安城市史編集委員会, 2005)にもあるという。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球(請島)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウズリー。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【生育地の環境 / 生態的特性】

山地や丘陵地の日あたりのよい草地に生育する。

【現在の生育状況 / 減少の要因】

全国的には減少傾向が著しいが、愛知県ではまだ比較的多く残存している。しかし愛知県においても、個体数は次第に少なくなっている。平野部に近い区画では、河川の堤防、水路わきの草地などに僅かに残存しているだけである。一部の区画では、すでに絶滅しているかもしれない。個体数の減少につれて、園芸目的の採取も目につくようになってきている。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地(いわゆるボタ)には、本種以外にもさまざまな草地性植物が生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。また、河川の堤防や幹線用水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。堤防や水路を改修する際には、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

秋の七草の「朝貌」は、本種のことだと言われている。

【引用文献】

安城市史編集委員会(編), 2005. 新編安城市史 11 資料編自然別冊 安城市植物目録 p.90. 安城市, 安城。  
小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.147. 愛知県, 名古屋。  
小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.167. 東三河農林水産事務所, 豊橋。

【関連文献】

保草本 I p.91、平草本 III p.149、環境庁 p.538、SOS 新版 p.83,85。

イズハハコ *Conyza japonica* (Thunb.) Less.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。点在するが個体数の少ない暖地性の植物で、不安定な立地に生育しており、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

1～越年生草本。全体に灰白色の軟毛が多い。茎は高さ 25～55cm になる。茎の下部につく葉はややロゼット状に集まり、長楕円形で円頭、基部は有翼の葉柄となり、長さ 5～13cm、幅 1.2～4cm、中部の葉は互生し、倒披針状長楕円形で長さ 5～10cm、鈍頭で基部は茎を抱く。花期は 4～6 月、頭花は茎の先端に密集してつき、総苞は長さ約 5.5mm である。小花はすべて筒状花、花冠は細く、そう果は扁平、長さ約 1mm、冠毛は汚白色または赤褐色をおびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 43506)、豊根 (小林 42379)、東栄 (小林 61817)、鳳来北東部 (小林 59391)、鳳来北西部 (小林 56544)、新城 (小林 66697)、豊川宝飯 (小林 79153)、蒲郡 (小林 79169) 御津 (小林 37239)、岡崎北部 (芹沢 64571)。

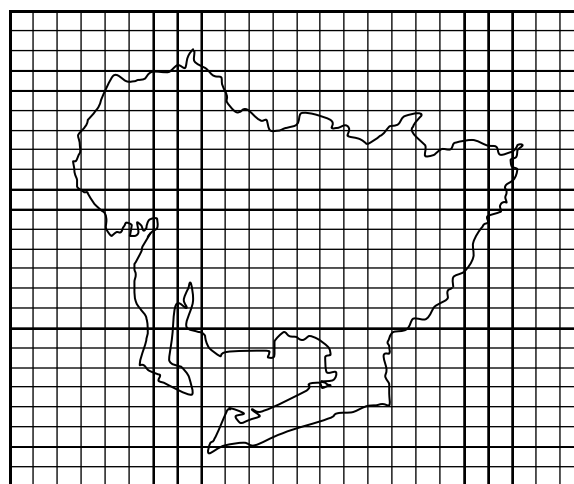
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本からマレーシア、インド、アフガニスタンにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

林道わきの日あたりのよい崖地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河では点在しているが、どの場所でも個体数は少ない。林道わきなどに生育しているものは、道路の改修や拡幅により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

林道の拡幅に際しては、特に注意が必要である。東三河以外では岡崎北部の 1 カ所で確認されているだけで、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

たいていはどうということのない場所に生育しているが、それでいてあまり見ることができない植物である。

【関連文献】

保草本 I p.77、平草本Ⅲp.188、SOS 旧版 p.86、環境庁 p.548、SOS 新版 p.55,57。



サケバヒヨドリ *Eupatorium laciniatum* Kitam.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。草地性の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は細く、高さ 50~100cm になる。葉は対生し、長さ 7~17mm の柄があり、葉身は通常 3 深裂し、裂片は長楕円形または披針形、頂裂片は長さ 7~8cm、大きな内曲する欠刻があるか 3 中裂し、側裂片は長さ 4~6cm、大きな欠刻があり、質は薄く、裏面に腺点はない。花期は 9~11 月、頭花は茎の先端に散房状に集まってつき、ほとんど白色、総苞は筒状、長さ 5~6mm、小花は 5 個ですべて筒状花である。そう果は長さ約 3mm で、冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

蒲郡（小林 80222）、豊橋南部（小林 70660）、田原赤羽根（芹沢 83800）、渥美（小林 40278）、幡豆（芹沢 57992）、知多南部（芹沢 83790）。

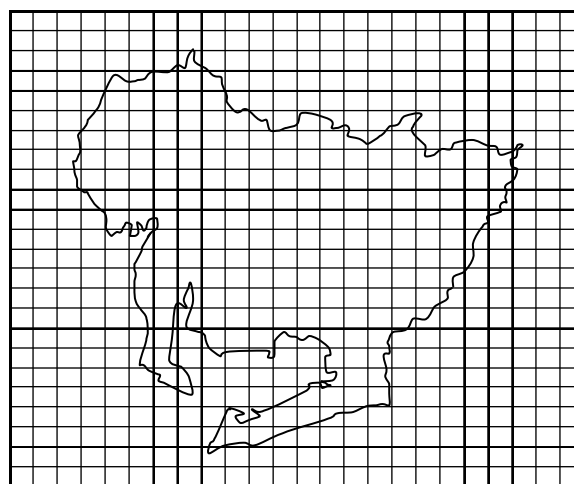
【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の草地や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では海岸近くの草地に生育しているが、ヒヨドリバナ属としては小型の植物であるため、ほとんどの場所で大型草本に覆われ、衰退している。幡豆では、ごく最近の状況は確認されていないが、すでに絶滅した可能性がある。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すると共に、草刈りや火入れによって草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

葉の裏面に腺点があるキクバヒヨドリ var. *dissectum* (Makino) Kitam. も、渥美で採集されたことがある。

【関連文献】

保草本 I p.88、平草本III p.211。

ミズギク *Inula ciliaris* (Miq.) Maxim.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。本地域の湧水湿地を特徴づける温帯性植物の一つである。

【形態】

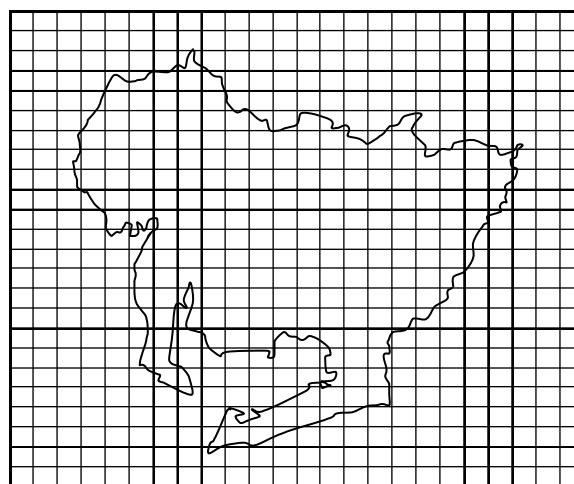
多年生草本。茎は直立し、上部で多少分枝し、高さ 25～50cm になる。根出葉は花時にも残存し、さじ形、長さ 4～10cm、幅 8～15mm、はじめ毛が多く、全縁である。茎葉は互生し、全縁、基部はやや茎を抱く。花期は 6～10 月、頭花は枝の先端に 1 個、上向きにつき、黄色、直径 3～4cm である。総苞は半球形、総苞片はほぼ同長、外片は狭長楕円形で、密に毛がある。そう果は長さ約 1.5mm、冠毛があり、表面にはまばらに毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手（芹沢 56516）、豊川宝飯（芹沢 56109）、豊橋北部（芹沢 56299）、田原赤羽根（芹沢 56317）、渥美（芹沢 59781）、下山（芹沢 63692）、藤岡（日比野修 858）、豊田東部（山崎玲子 893）、豊田北西部（芹沢 62613）、三好（臼井里華 673）、額田（芹沢 71310）、岡崎北部（芹沢 67153）、岡崎南部（芹沢 52795）、幸田（芹沢 53259）、瀬戸尾張旭（芹沢 76014）、日進長久手（近藤洋一郎 7882）、豊明東郷（芹沢 59858）、半田武豊（林彰一 510）、常滑（芹沢 56611）、知多南部（芹沢 56666）、春日井（日比野修 2496）、名古屋北部（村松正雄 18565）。新城（有海原、加藤等次 s.n., 1957-9-13）、名古屋南東部（天白区平針、犬飼 清 s.n., 1967-9-16）で採集された標本もある。温帯性植物であるが、県東部の山地には分布していない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州（近畿地方以東）および九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境 / 生態的特性】

一般には山地の湿地に生育する。愛知県では丘陵地の湧水湿地に点在する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在の所はまだ生育地も個体数も多いが、丘陵部の開発により生育地の湿地が破壊され、次第に減少している。花が目立つため、目につきやすい場所では園芸目的で採取されることもある。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湿地を涵養する水源部もあわせて保全する必要がある。その一方で、本種は花が比較的目立つため、本来生育していなかった湿地に移植しようとする動きもある。このような移植は、植え込みの時に湿地を攪乱し、その場所にもともとあった植物に悪影響を与えるだけでなく、植物の本来の分布を混乱させてしまう。植物の分布には歴史性があり、ないものは「ない」のがその湿地の個性である。かつてあったがなくなってしまった湿地に移植することも、原則としてやめるべきである。

【関連文献】

保草本 I p.69、平草本Ⅲp.203、SOS 旧版 p.87、SOS 新版 p.99,101。

## ホクチアザミ *Saussurea gracilis* Maxim.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。西日本系の草地性植物で、愛知県は分布域の東限に近い。

### 【形態】

多年生草本。茎は細く、上部で多少分枝し、高さ 20~40cm になる。根出葉には長い柄があり、葉身は長 3 角形、長さ 6~11cm、先端は鋭くとがり、基部は心形、表面は緑色、裏面は綿毛があつて白色となる。茎葉は互生し、下部のものは柄があるが、上部のものは小さく、無柄となる。花期は 8~10 月、頭花は茎の先端に数個つき、紅紫色、総苞は長さ 13~16mm、幅 8~14mm で、紫色をおびる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

津具(鈴木 学 2240)、稲武(芹沢 38681)、設楽西部(芹沢 56851)、設楽東部(小林 60335)、鳳来北東部(小林 60341)、作手(小林 54638)、豊川宝飯(小林 48417)、旭(芹沢 63818)、足助(芹沢 78964)、下山(芹沢 63702)、小原(伊藤泰輔 267)、豊田東部(小林 62698)。豊根と東栄にもあるという(小林, 2006)。三河山地に点在しているが、他の多くの草地性植物と異なり、丘陵地には見られない。鳳来北西部(恩原竜頭山, 鳥居喜一 8624, 1954-10-24, HNSM)で採集された標本もある。

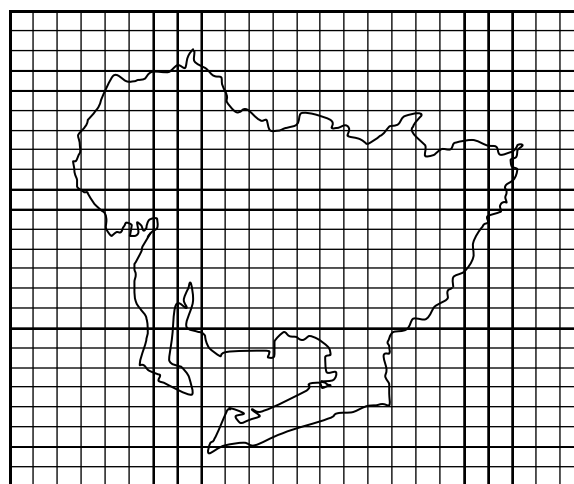
#### 【国内の分布】

本州(静岡県以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい山地の草原に生育する。愛知県では、落葉広葉樹林の林縁や明るい林内に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在しているが、群生することはない。二次林の生長につれて林内が暗くなり、次第に衰退している。

### 【保全上の留意点】

二次林を適度に伐採し、さまざまなステージが混在する状態を維持することが必要である。

### 【特記事項】

和名は、葉裏に火口に使うような白色の綿毛が多いからである。

### 【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.210. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

### 【関連文献】

保草本 I p.25、平草本 III p.222、SOS 新版 p.55,57.

ヤマザトタンポポ *Taraxacum denudatum* H.Koidz. var. *arakii* (Kitam.) Seriz.

【除外理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。本州西部と四国に分布する植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内での分布域は狭い範囲に限られている。総点は 12 であるが、花が淡黄色のキビシロタンポポ var. *denudatum* は個体数が多いことを考慮し、準絶滅危惧と評価する。

【形態】

多年生草本、根は深く地中に伸びる。葉は束生し、線状楕円形～倒披針形、長さ 12～30cm、幅 2.5～5cm、先端は鋭頭、基部は細まって柄状になり、通常羽状に浅～深裂、裂片は斜上することも開出して多少逆向することもある。花期は 4 月、頭花は束生する花茎の先端に 1 個つき、花茎は花時には長さ 10～25cm で通常葉と同長かそれより短い、花後伸長して長さ 20～40cm となる。総苞外片は狭卵形～卵形、内片の 1/2～1/3、辺縁部は多少紅色を帯び、先端の突起はほとんどないものから 3mm に達するものまでである。花卉はレモン色に近い黄色である。そう果は灰褐色～黒褐色、本体の長さは 5mm 程度、長い柄の先に冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

知多南部（芹沢 27748, 1978 年の採集だが 2008 年に現存確認）。

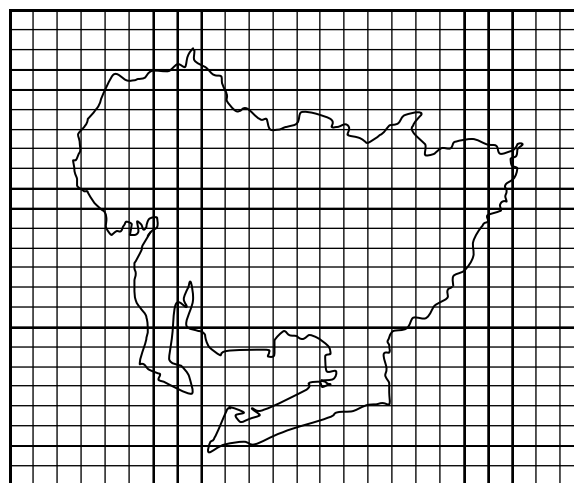
【国内の分布】

本州（愛知県～岡山県）。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

ニホンタンポポ *T. platycarpum* Dahlst. と同様、人里周辺の路傍や林縁などの草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県での分布は、知多半島先端部の内海を中心とした地域に限られており、生育地も少ない。ニホンタンポポの夏期休眠性遺伝子を取り込んだ雑種性帰化タンポポの増加により、深刻な影響を受ける可能性がある。

【保全上の留意点】

過度の攪乱がなければ、今後とも存続するものと思われる。本種が生育し続けることができるようなおちついた集落環境の保全は、是非とも必要なことである。

【特記事項】

キビシロタンポポの詳細な分布図は、芹沢（1986）に示されている。

【引用文献】

芹沢俊介, 1986. 愛知県知多半島に生育する淡黄色花タンポポについて. 植物地理・分類研究 34: 55-59.

【関連文献】

保草本 I p.14, SOS 旧版 p.88.

ネコノシタ *Wedelia prostrata* (Hook. et Arn.) Hemsl.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。海浜性の植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は長く地をはい、節から根を出す。葉は対生し、2~8mmの柄があり、葉身はふつう長楕円形、ときに卵形または披針形、長さ1.5~4cm、幅4~14mm、質は厚く、短い剛毛があって著しくざらつく。花期は7~10月、頭花は斜上した茎の先に1個つき、黄色、直径16~22mm、総苞は半球形で、総苞片は卵形である。そう果は長さ3.5~4mm、花床の鱗片で包まれ、冠毛は目立たない。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美(芹沢 59714)、常滑(梅田零奈 595)、知多南部(岡田美之 1022)。大原(1968, 1971)によれば、田原赤羽根、蒲郡(三河大島、西浦)、幡豆、半田武豊にもあったという。

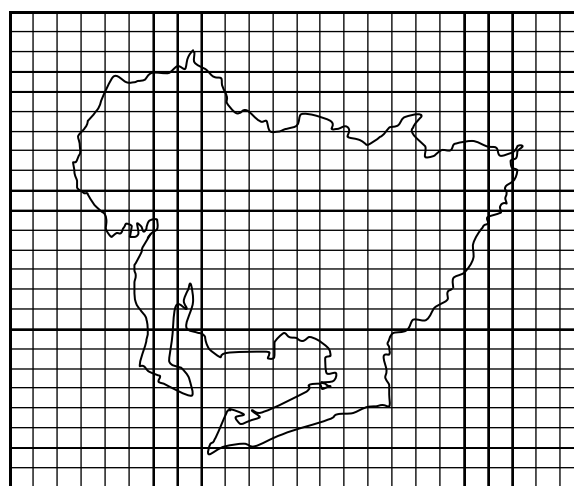
【国内の分布】

本州(関東地方および北陸地方以西)、四国、九州、琉球、小笠原。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、ベトナム。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の砂地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は限られているが、ある場所では茎を長く伸ばし、よくひろがっていることが多い。南知多町篠島(沢井輝男 s.n., 採集日不明)、同南奥田海岸(相羽福松 916, 1980-10-9)など現在では生育が確認できない場所で採集された標本もあるので、以前はもっとあちこちにあったのではないかと思われる。

【保全上の留意点】

自然度の高い砂浜は、観光開発や護岸工事、あるいは陸地における砂防工事の進展による砂供給の停止により、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在砂浜や砂丘の状態が残されている場所は、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、どこも注意して保全する必要がある。

【特記事項】

葉が著しくざらつくので、ネコノシタと呼ばれる。ハマグルマともいう。暖地性の海浜植物で、この属の中では最も北まで分布している。

【引用文献】

大原準之助, 1968. 蒲郡の植物 第1集 p.38, 89. 蒲郡市教育委員会, 蒲郡.  
大原準之助, 1971. 愛知県国固有林の植物誌 p.126. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.64、平草本 III p.175、SOS 新版 p.151, 153.

## エビアマモ *Phyllospadix japonica* Makino

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 1、固有度階級 2。外洋性の海産種子植物で、愛知県では生育地が局限されており、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

沈水生の多年生草本。根茎は短く、多くの根を出して岩に固着し、密に葉と、古い葉が枯死した後に残る黒褐色の繊維をつける。葉は長い線形、長さ 25~55cm、幅 2~2.5mm、先は円頭で凹端である。花期は 3 月、花序は根茎から出た短い枝につき、葉鞘に包まれ、肉穂状、やや反り返って、辺縁に葯隔付属突起をつけ、雌雄異株、花は 1 個の雄ずいまたは雌ずいからなり、2 列に並ぶ。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

田原赤羽根（小林 74965）、渥美（芹沢 52331）。知多南部（篠島，小林博人 24, 1938-7-10）で採集された標本もある。

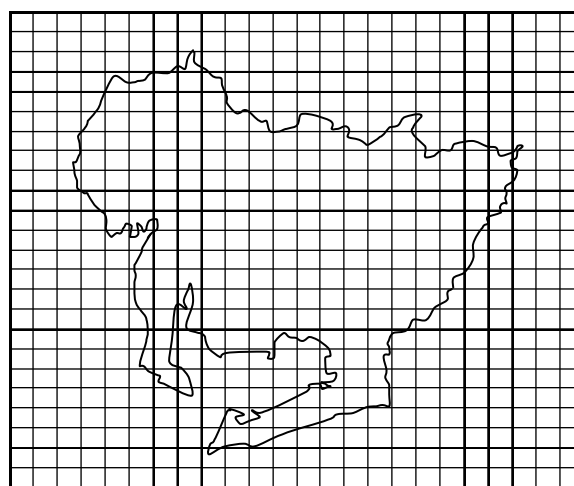
#### 【国内の分布】

本州（関東地方北部以西）と九州北部に生育する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

海産の種子植物で、外洋に面した潮間帯～漸深帯の岩礁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				○

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では、もともと本種が生育できるような岩礁が少なく、生育地は局限されている。ただし、その場所では個体数は多い。外洋なので水質が変化するおそれは少ないが、観光地であるため、開発工事等により岩礁が破壊される可能性がある。

### 【保全上の留意点】

護岸工事や開発事業を計画する際には、特に配慮が必要である。地形を改変しなければ、当面は現状どおり存続するものと思われる。

### 【特記事項】

和名は、花序の形がエビに似ているからである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.406、平草本Ⅰp.14、SOS 新版 p.159,161。

シバナ *Triglochin maritimum* L.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。特に西日本で減少傾向の著しい、塩湿地性の植物である。

【形態】

多年生草本。地下茎は太く、横にはい、よく分枝して株になる。葉は束生し、細い線形、長さ 10～40cm、幅 1.5～5mm、断面は半月形、先端は鈍頭、下部は葉鞘となる。葉鞘は白色で、先端に長さ 3～5mm の葉舌がある。花期は 9～10 月、花茎は高さ 15～50cm で直立し、その上部の長さ 5～15cm の総状花序に、多数の花をつける。花には花時に長さ 1.5～2mm、果時に長さ 2.5～5mm の柄があり、花被片は 6 枚、黄緑色、楕円形で長さ約 2.5mm、雄ずいと心皮も 6 個である。果実は 6 心皮が集まって長楕円形となり、長さ 3.5～4.4mm、先端に柱頭が残存する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部（芹沢 81138）、田原赤羽根（小林 48828）、渥美（小林 48809）、幡豆（芹沢 81051）、大府東浦（芹沢 71365）、東海知多（芹沢 77022）、名古屋南西部（芹沢 83579）。西尾（中根町、芹沢 68925, 1993-10-29）にも生育していたが、ここでは現存を確認できない。常滑（多屋海岸、相羽福松 1329, 1982-10-23）で採集された標本もある。

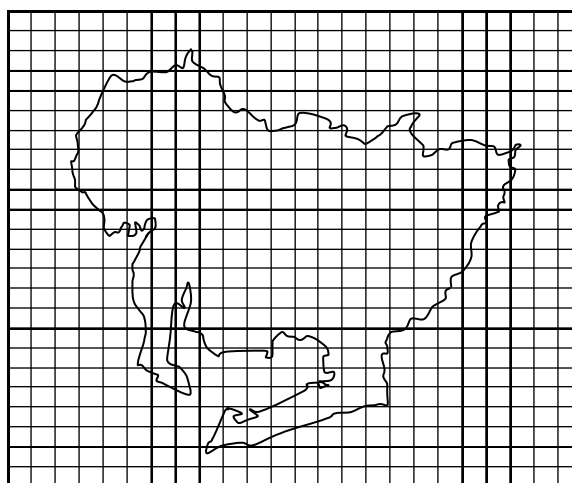
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。北日本のものは、マルミノシバナとして区別されることがある。

【世界の分布】

北半球に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河口や干潟などの塩湿地に生育する。自然度の高い塩湿地だけでなく、護岸堤防のすき間、埋め立て地の水路など、攪乱された場所に大きい群落を作っている場合もある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

三河湾には点在しており、中にはかなり大きい群落もある。伊勢湾は 2 カ所で小群落が確認されているが、このうち東海知多は、「よくもこんなところに・・・」と思うほどの埋め立て地の水路である。名古屋南西部では庄内川河口に小群落があったが、河川改修工事により激減した。これは不注意に起因するもので、現在回復措置が講じられ、元の状態に戻りつつある。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。本種の場合はやや攪乱された場所にも生育するので、種の存続という点に限れば準絶滅危惧と評価されるが、本来の生育地が失われているという状況は、より自然度の高い場所だけに生育する種と同様である。

【特記事項】

和名は、「塩場菜」という意味で、「芝菜」ではないと言われている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.405、平草本Ⅰp.9、SOS 旧版 p.90、環境庁 p.561、SOS 新版 p.155,157。

ヒルムシロ *Potamogeton distinctus* A.Bennett

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。人里近くに生育する水草で、近年減少傾向が著しい。

【形態】

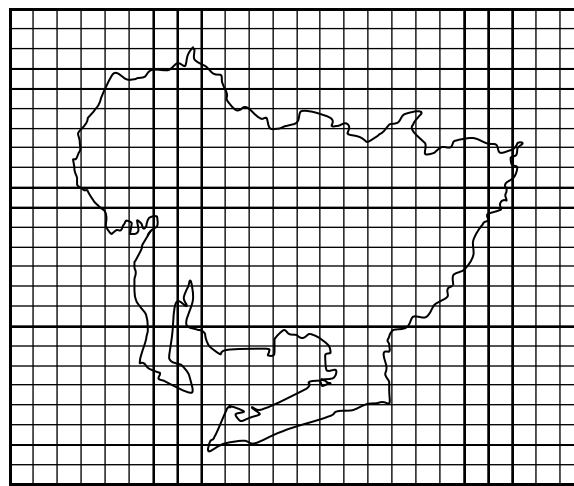
沈水性の多年生草本。水中茎は水田などでは長さ数 cm 程度のこともあるが池中では 1m 以上に伸びる。葉は互生し、沈水葉は長さ 1~5cm の柄があり、葉身は長楕円形~線状披針形、長さ 1.5~8cm、浮葉は長い柄があり、葉身は楕円形~楕円状披針形、長さ 2~12cm、幅 1~4cm である。花期は 5~9 月、花序は穂状で、長さ 2~5cm である。秋に地下茎の先端に、バナナの房状の殖芽をつける。沈水葉にはっきりした柄があるのが特徴だが、浅い水中に生育するものは沈水葉をつけないことがある。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具(村松正雄 888)、東栄(小林 48447)、設楽西部(山崎玲子 2020)、豊川宝飯(加藤等次 4100)、蒲郡(小林 80232)、田原赤羽根(小林 47676)、旭(塚本威彦 754)、小原(塚本威彦 1244)、藤岡(塚本威彦 385)、安城(堀田喜久 6460)、幡豆(芹沢 71392)、瀬戸尾張旭(鈴木 淳 130)、日進長久手(芹沢 78035)、大府東浦(中井三従美 21)、犬山(福岡義洋 4152)、春日井(鈴木 淳 33)、名古屋北部(鳥居ちる子 2654)、名古屋南東部(太田美根子 1)、尾西(渡辺幸子 3223)。豊田北西部(猿投山, 岡本英一 94, 1958-10-3)、刈谷知立(刈谷市井ヶ谷町, 浜島繁隆 s.n., 1968-8-24)、豊明東郷(豊明, 岡田善敏 s.n., 1936-9-16)、一宮木曾川(旧葉栗村, 沢井輝男 s.n., 1933-8-10)で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境 / 生態的特性】

フトヒルムシロが山間部の池沼に多いのに対し、本種は主として人里近くの池沼に生育する。水田雑草となることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつては普通に見られる水草であり、1990 年代にもまだあちこちで見ることができたが、水の汚れや帰化植物の繁茂、水域の埋め立てなどの影響を受けて激減している。名古屋市内ではほとんど絶滅し、他にもいくつかの区画ですでに絶滅しているかもしれない。「こんなものが？」と言われそうだが、平野部の水草を取り巻く状況はかくも厳しい。フトヒルムシロがあまり減少していないのと対照的である。

【保全上の留意点】

人里近くのため池の水質を維持すること、谷戸田を放棄しないことなどが必要だが、現実問題としてはどちらもなかなか困難である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.410、平草本Ⅰp.10。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.33. 文一総合出版, 東京。



イトモ *Potamogeton pusillus* L.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地が少ない。

【形態】

沈水性の多年生草本。水中茎は細く、よく分枝する。葉は互生し、すべて沈水葉、無柄、葉身は狭線形、長さ 2~5cm、幅 0.7~1.5mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁、1~3 脈があり、基部は葉鞘とならない。花期は 6~8 月、花茎は長さ 1~2cm、花序は穂状で、長さ 3~5mm である。花は両性、4 個の心皮がある。果実は広卵形、長さ約 2~2.5mm である。殖芽は秋に枝の先端につき、長さ 1.5~2.5cm、ホソバミズヒキモやナガレミズヒキモのものに比べてかなり大きく、中軸はやや太くなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（加藤等次 3927）、小原（芹沢 78117）、藤岡（芹沢 77966）、豊田北西部（鳥居ちる子 1383）、瀬戸尾張旭（芹沢 75145）、日進長久手（福岡義洋 s.n.）、犬山（芹沢 78411）。豊橋北部にもあるという（小林, 2001）。新城（旧八名村, 鳥居喜一 9210, 1942-8-2, HNSM）で採集された標本もある。

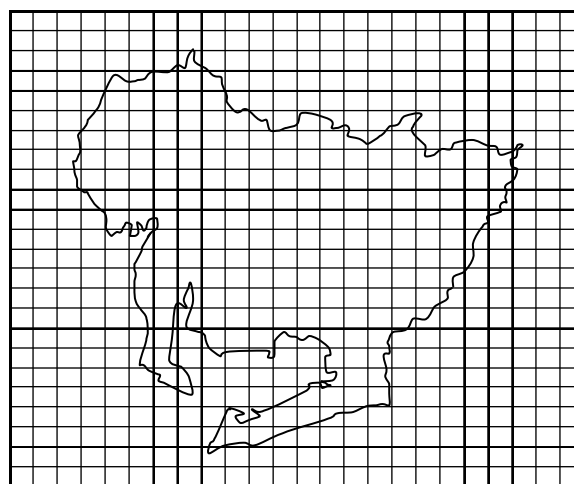
【国内の分布】

北海道、本州、九州（北部）。

【世界の分布】

全世界に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

池沼や水路に生育する。愛知県の生育地は、ほとんどが丘陵地のため池である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少なく、個体数もそれほど多くない。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生活場所になっている。しかし、本種が生育できるような生活排水の流入しない位置にあるため池は、一方で管理放棄により水がなくなっているものも多い。現在本種が生育しているため池を現状のまま維持するだけでなく、潜在的な生育地である良好な状態のため池をできるだけ多く保全することが必要である。

【特記事項】

ホソバミズヒキモやナガレミズヒキモ、あるいはそれらとヤナギモの雑種と混同されていることが多く、あちこちで記録されているが、実際の生育地は少ない。沿海地にあるものはツツイトモ *P. panormitanus* Biv. (435 頁) である。

【引用文献】

小林元男, 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.134. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.416、平草本Ⅰ p.12、環境庁 p.563.  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.44. 文一総合出版, 東京.

## カワツルモ *Ruppia maritima* L.

### 【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。河口部などの水域に生育する水草で、全国的に減少傾向が著しい。

### 【形態】

沈水性の多年生草本。地下茎は水底をはい、各節から水中茎を出す。水中茎は細く、よく分枝する。葉は互生し、狭線形、長さ 5~10cm、幅 0.3~0.5mm、先端は鋭頭、辺縁には微鋸歯があり、基部は 8~15mm の葉鞘となって茎を抱く。花期は 6~8 月、葉鞘の中から長さ 2~4cm の花茎を出し、先端近くに 2 個の花をつける。花茎は花後に伸びて約 10cm になり、心皮の柄も伸びて、その先に卵球形で長さ約 2.5mm の果実をつける。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

蒲郡（小林 58665）、豊橋南部（芹沢 78351）、田原赤羽根（小林 64156）、渥美（芹沢 79245）、刈谷知立（芹沢 71361）、西尾（芹沢 71169）、知多南部（浜島繁隆 1085）。幡豆（一色町実緑新田，浜島繁隆 1084, 1982-8-11）で採集された標本もある。

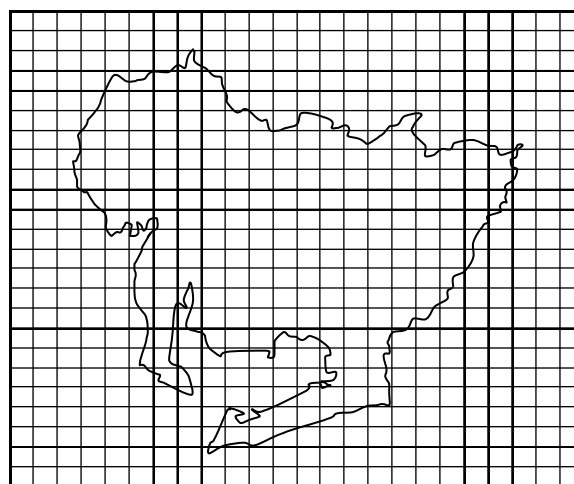
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

全世界に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの池沼や水たまりに生育する。愛知県では、特に養魚場跡に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	○

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

渥美半島ではかなり多量に生育している場所があるが、他では辛うじて残存という状況である。一部の区画では、すでに絶滅しているかもしれない。

### 【保全上の留意点】

本種が生育しているような河口部の水域は、開発圧力が高く、人為的な水の汚染も起きやすい。現在生育が確認されている場所を保全し、水質を現在以上に悪化させないことはもちろん必要であるが、それと共に河口部河川後背地の自然環境の保全について、長期的な戦略が必要である。養魚場跡は水中や水辺にそれなりに自然が回復している場合があり、埋立てなどの際には注意が必要である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.410、平草本Ⅰ p.12、SOS 旧版 p.90+図版 22、環境庁 p.365。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.48. 文一総合出版, 東京.

## オオトリゲモ *Najas oguraensis* Miki

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。池沼に生育する水草で、県内では減少傾向が著しい。

### 【形態】

沈水性の1年生草本。茎は細く、長さ50cm以上になり、よく分枝するが折れやすい。葉は対生または3輪生、葉身は外側に曲がることもあまり曲がらないこともあり、線形、長さ2~4cm、幅0.3~0.7mm、質はやや硬く、辺縁にははっきりした鋸歯がある。葉の基部は長さ2~4mmの葉鞘となり、葉鞘の先端は切形で小刺がある。花期は7~9月、雌雄同株で花は葉腋につき、雄花は苞鞘に包まれ、葯には4室がある。果実は各節に1個ずつつき、1個の種子があり、種子は長楕円形、長さ3~3.5mm、表面には横に長い網目模様がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

蒲郡(小林 79981)、豊橋南部(小林 70307)、渥美(芹沢 78715)、旭(塚本威彦 628)、豊田北西部(土場トシ子 609)、幡豆(芹沢 82702)、瀬戸尾張旭(芹沢 82046)、大府東浦(中井三従美 23)、知多南部(小林 54583)、名古屋北部(鳥居ちえ子 2363)。

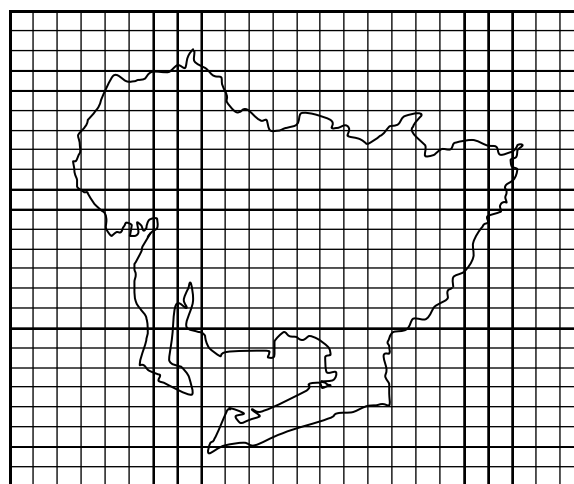
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

湖沼やため池に生育する。しばしば水中で、こんもりと塊状になって生育している。愛知県における生育地はため池で、サガミトリゲモやイトトリゲモと異なり、水田やそのわきの水路には見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内ではいくつかのため池で確認されているが、どの池も水が汚れて透明度が低く、水面から繁茂している様子が確認できるような場所はない。詳細な生育状況は不明であるが、衰退傾向にあることは確実と思われる。

### 【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生活場所になっている。しかし、幹線用水路の整備につれてため池に対する依存度が低下したため、埋め立てられたり、調整池として改修されたり、あるいは原形を保っていても生活排水が流入して汚染が進んだりしているものが多く、良好な状態を保っているため池はあまり残っていない。本種の場合も、生育地のため池を改修せずに保全すると共に、水質が現在以上に悪化しないよう、配慮が必要である。

### 【特記事項】

トリゲモ *N. minor* L. は本種によく似ているが、雄ずいの葯が1室であるという。角野(1994)の分布図では豊橋付近に点が打たれているが、詳細はまだ確認していない。

### 【引用文献】

角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.53. 文一総合出版, 東京.

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.408、平草本Ⅰ p.18.  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.52. 文一総合出版, 東京.

ヒメニラ *Allium monanthum* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の早春植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。地下に卵形で長さ 1cm ほどの鱗茎がある。葉は 1~2 個が根出状に出て線形、長さ 10~20cm、幅 3~8mm、断面は三日月形である。花期は 4~5 月、雌雄異株で、高さ 5~10cm の細い花茎の先に、雌花は 1~2 個、雄花は 2~4 個が、上を向いて咲く。総苞は卵形、膜質で裂けない。花被片は 6 個、長楕円形で長さ 4~5mm、白色または微紅色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（村松正雄 15046）、東栄（小林 41194）、鳳来北東部（小林 50436）。稲武にもあるという（小林, 2006）。春日井（玉野, 岡田善敏 s.n., 1943-4-18）で採集された標本もある。

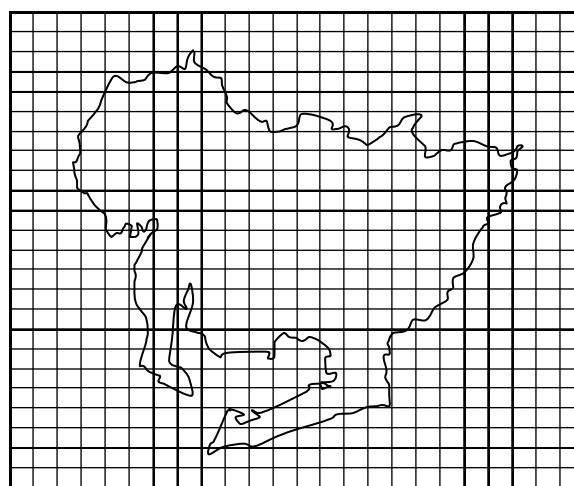
【国内の分布】

北海道、本州（近畿地方以東）、四国。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウズリ一。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の明るい落葉広葉樹林内や、林縁の草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

ある場所では群生することが多いが、小形の植物であるため、総量としては少ない。どの生育地でも草地の利用停止に伴い大型草本が繁茂し、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

草刈り等を継続し、草地状態を維持することが必要である。

【特記事項】

県内では雌株ばかりで、雄株は確認されていない。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.74, 213. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.121、平草本 I p.36、SOS 旧版 p.91。

マイヅルソウ *Maianthemum dilatatum* (Wood) Nels. et Macbr.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。寒冷地系の植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。細く長い根茎がある。地上茎は高さ 10~25cm になり、無毛である。茎葉は 2 個が互生し、長さ 1~10cm の柄があり、葉身は卵心形、長さ 3~7.5cm、幅 2.5~7cm、先端は鋭頭~鋭尖頭、基部は深い心形、辺縁には半月形の微小な隆起があり、両面無毛である。花期は 5~7 月、茎の先端に 1 個の花序をつけ、20 個ほどの花を総状につけ、花被片は 4 個、白色、楕円形で長さ約 2mm、平開して先は反り返り、雄ずいも 4 個である。果実は液果で球形、直径 5~7mm、赤色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 81415）、設楽西部（小林 51625）、足助（日比野修 3767）。富山（横林、鳥居喜一 11966, 1958-5-25, HNSM）で採集された標本もある。

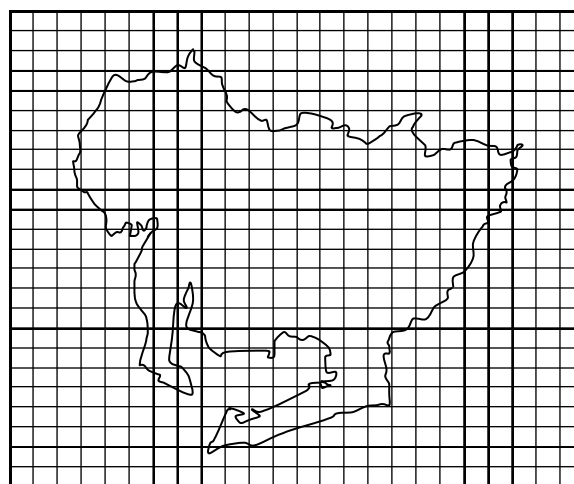
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部、サハリン、千島列島、カムチャッカ、北アメリカ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。特に亜高山帯の針葉樹林内に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内では生育地は少なく、生育範囲も狭い。個体数はかなりあるが、小形の植物なので、量としてはそれほど多くない。設楽西部は神社境内の造林地内で、手入れ不足により林内が暗くなり、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐など適切な手入れが必要である。また造林地はいつか伐採されるはずであるが、その時はまず一部を伐採し、その部分の林がある程度回復してから次の部分を伐採するようにして、林床植生の保全を図るべきである。

【特記事項】

和名は、葉脈の形状を鶴の舞う姿に見立てたものである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.106、平草本Ⅰp.48、SOS旧版p.95。

イワショウブ *Tofieldia japonica* Miq.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。この地域の湧水湿地を特徴づける、寒冷地性植物の一つである。

【形態】

多年生草本。地下茎は短く、分枝して斜上する。根出葉は 2 列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、線形で長さ 10~40cm、幅 3~6mm、多少なりとも鎌状に湾曲する。花茎は高さ 20~70cm、1~2 個の小型の葉がつき、上部に多数の腺状突起があつて粘る。花期は 8~9 月、花茎の先端に長さ 3~10cm の総状花序をつけ、苞は卵形または披針形、それぞれの苞の腋に 3 個の花をつける。花被片は 6 個、白色で時に僅かに紅色を帯び、長楕円形、長さ 5~7mm である。果実は蒴果で卵状楕円形、種子は一端に尾状の付属物がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 78851）、豊橋南部（芹沢 57641）、田原赤羽根（芹沢 56702）、小原（芹沢 52717）、藤岡（塚本威彦 357）、豊田東部（芹沢 53153）、豊田北西部（芹沢 53700）、三好（芹沢 63923）、瀬戸尾張旭（大谷敏和 81）、半田武豊（芹沢 75121）、常滑（芹沢 60689）、知多南部（芹沢 53665）。豊橋北部から渥美半島にかけてと知多半島には比較的多く、また岐阜県東濃地方にも多いが、他の湧水湿地性植物が多い西三河から尾張北部にかけての丘陵地では稀である。

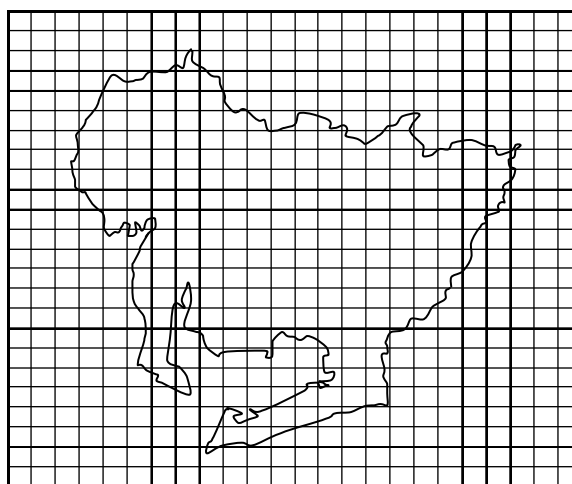
【国内の分布】

本州の、主として中北部の山地に生育する。分布の西限は鳥取県伯耆大山である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は山地の湿原に生育する。愛知県の生育地は、丘陵地の湧水湿地の、日当たりのよい場所である。時には尾根などの粘土質の半裸地に生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

渥美半島と知多半島の湧水湿地は、丘陵地の開発に加えて夏期の高温乾燥傾向に伴う湧水の枯渇と遷移の進行によって、ほとんどが極めて危機的な状態に追い込まれている。そのため本種も愛知県では急激に減少しており、個体数も集団数も実際にはすでに階級 2（その場合評価は絶滅危惧 II 類）になっているかもしれない。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地には、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。保全上の優先順位も高い。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形も合わせて保全する必要がある。また、湿地周辺のやせ山状態を維持し、富栄養化を防止することも必要である。

【特記事項】

イワショウブと名付けられているが、通常岩上には生育しない。

【関連文献】

保草本Ⅲp.154、平草本Ⅰp.26、SOS 旧版 p.95+図版 19、SOS 新版 p.99,101。

タマガワホトトギス *Tricyrtis latifolia* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は縦に伸び、横に走出枝を出す。地上茎は斜上し、高さ 40～80cm、ほとんど無毛である。葉は互生し、葉身は広楕円形、長さ 8～15cm、幅 3.5～6.5cm、先端は鋭尖頭、基部は心形で茎を抱き、辺縁は全縁である。花期は 7～9 月、茎の先端と上部の葉腋に散房花序をつけ、花被片は 6 枚で黄色、斜めに開き、内面に紫褐色の斑点があり、内片は長楕円形、長さ 20mm 程度、外片は楕円形で内片より幅広く、基部に大きなふくらみがある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根(小林 38412)、設楽西部(芹沢 83177)。

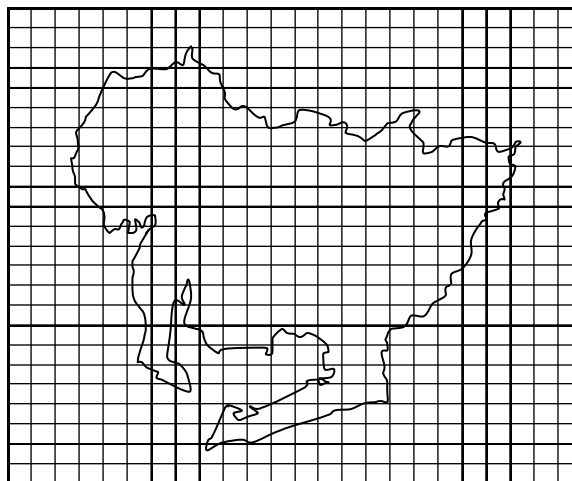
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの湿った岩場に生育する。愛知県の生育地はいずれも林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は比較的多いが、被陰により衰退傾向が著しく、開花する個体は僅かである。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐など適切な手入れが必要である。

【特記事項】

和名は、黄色の花をヤマブキに例え、ヤマブキの名所である京都府井手の玉川の名を借りたものだと言われている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.146、平草本Ⅰp.25、SOS 旧版 p.96。

## キクバドコロ *Dioscorea septemloba* Thunb.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。山地性の植物で、愛知県では個体数が少ない。総点は 10 であるが、被陰による衰退傾向が著しいので準絶滅危惧と評価する。

### 【形態】

多年生のつる性草本。地下茎は太く横にはう。茎は長く伸び、無毛である。葉は互生し、長さ 5～10cm の柄があり、葉身は卵心形で掌状に 5～9 裂し、長さ 10～18cm、幅 8～15cm、裂片の先端は鋭尖頭である。葉柄の基部には小突起がなく、葉は乾くと黒変する。花期は 6～7 月、雌雄異株で、雄花序は分枝し、雄花はまばらについて無柄、花被片は 6 枚で黄緑色、披針形で平開する。雌花序は穂状、雌花にも柄がない。果実は蒴果で、3 翼がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

富山 (芹沢 82104)、東栄 (小林 34244)、設楽東部 (小林 53362)、鳳来北東部 (小林 64469)、作手 (小林 53956)、額田 (小林 52446)。豊根にもあるという (小林, 2006)。

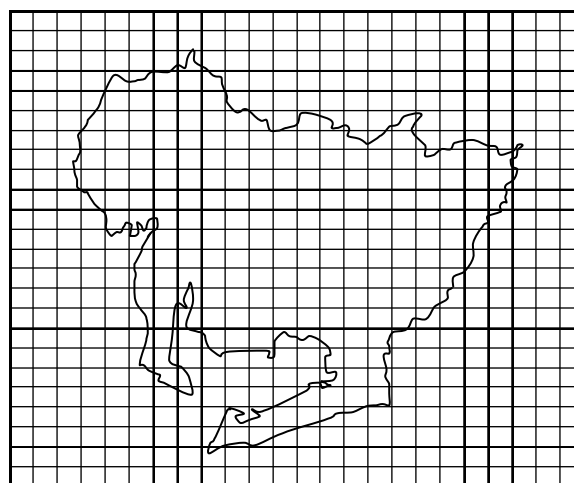
#### 【国内の分布】

本州 (東北地方南部以南)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林縁などに生育する。愛知県ではヒノキ造林地内に生育することが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河の山地に点在するが、個体数は少ない。林内の光条件の悪化で、衰退しているものが多い。西三河では 1 カ所で確認されているだけである。

### 【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な手入れが必要である。

### 【特記事項】

モミジドコロとも呼ばれる。葉が掌状に切れ込む日本産ヤマノイモ属植物の中では、切れ込みが最も深い。

### 【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.218. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.84、平草本Ⅰp.58。



## ヒオウギ *Belamcanda chinensis* (L.) DC.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。草地性の植物で、愛知県では減少傾向が著しい。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は短くはう。地上茎は直立して上部で分枝し、高さ 50～120cm になる。葉は互生し、2 列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、広い線形、長さ 30～50cm、幅 2～4cm、先端は鋭尖頭、緑色で多少粉白をおびる。花期は 8～9 月、分枝した枝先に数個の膜質の苞をつける。花は苞の中に 3～4 個つき、直径 4～5cm、長さ 1～4cm の柄があり、花被片は 6 枚、橙色で内面に暗赤色の斑点があり、狭長楕円形である。果実は蒴果で倒卵状楕円形、長さ約 3cm。種子は光沢のある黒色、球形で直径約 5mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

富山 (小林 46836)、東栄 (小林 38919)、設楽東部 (小林 54703)、鳳来北東部 (小林 40116)、作手 (小林 62484)、豊橋北部 (芹沢・芳山 172)、藤岡 (日比野修 3696)、額田 (小林 49218)。新城にもあるという (小林, 2000)。標本は採取しなかったが、鳳来南部でも見たことがある。豊根 (下黒川新井, 鳥居喜一 324, 1958-9-22, HNSM)、蒲郡 (西浦町, 鳥居喜一 12221, 1949-7-17, HNSM)、豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 275, 1958-7-24) で採集された標本もある。

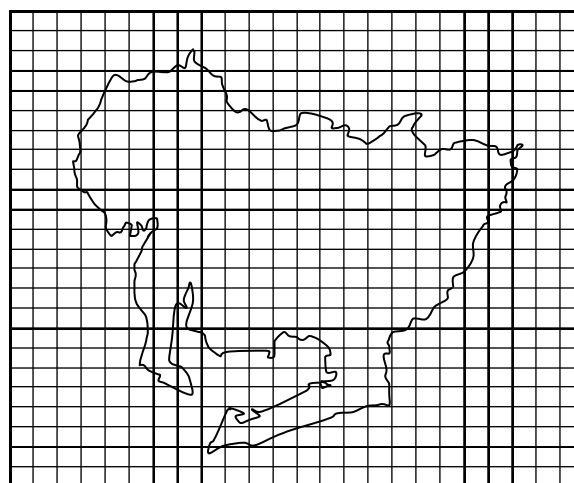
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インドなど。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の草原に生育する。谷戸田周辺の里草地にはあまり見られず、尾根すじのカヤ場に多い。岩棚などに生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河には点在するが、個体数は少ない。西三河では極めて稀で、尾張ではまだ確認されていない。採草地としての利用の停止に伴う草地の減少により、減少傾向にある。全国的にも、おそらくは似たような状況にあると思われる。

### 【保全上の留意点】

尾根すじの草地は防火帯としても重要であり、定期的に草刈りを行って草地状態を維持する必要がある。

### 【特記事項】

観賞用として、しばしば栽培される。和名は、葉の並び方が檜扇に似ているためである。種子は黒くてうば玉、あるいはぬば玉と呼ばれ、古来黒、夜、あるいはそれに関連した語の枕詞とされた。

### 【引用文献】

小林元男, 2000. 新城地方の植物 p.163. 愛知県, 名古屋.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.74、平草本Ⅰp.62、SOS 旧版 p.96.

ツクシクロイヌノヒゲ *Eriocaulon kiusianum* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい湿地性植物である。

【形態】

1 年生草本。茎は短く、葉を束生する。葉は斜上し、ごく細い三角形、長さ 4~15cm、幅 2~5mm、全縁、先端は細くとがる。花期は 9~10 月、花茎は少数のものから 50 本以上出るものまであり、中央のものが最も長くて高さ 8~20cm、基部に 3~6.5cm の鞘があり、先端に 1 個の頭花をつける。頭花は球形~扁球形、直径 4~7mm、総苞片は卵形で鋭頭、頭花よりやや長く、小花は黒藍色、子房と蒴果は 3 室である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田東部 (山崎玲子 1521)、瀬戸尾張旭 (日比野修 839)、日進長久手 (芹沢 64007)、知多南部 (中井三従美 45)、春日井 (芹沢 73396)。豊川宝飯 (一宮町足山田, 鳥居喜一 11532, 1947-10-12, HNSM)、豊橋北部 (岩田町水神池, 鳥居喜一 11535, 1947-10-19, HNSM)、豊橋南部 (高師原, 鳥居喜一 11533, 1941-11-3, HNSM) で採集された標本もある。

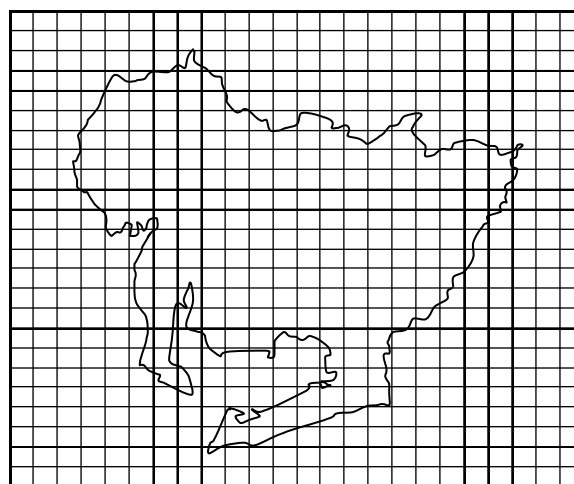
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

干上がったため池の岸に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少ないが、ある場所ではそれなりの個体数が見られることが多い。ただし個体数は年による変動が著しく、水が引かなかった年には全く出現しないこともある。ため池の埋め立てや水の汚れにより、次第に減少している。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。本種が生育しているようなため池には他の植物も多く生育しており、水辺地形や水質を注意して保全する必要がある。

【特記事項】

本種の同定は、東京農業大学の宮本 太氏によるものである。

【関連文献】

SOS 旧版 p.97 (クロイヌノヒゲとして)、環境庁 p.575。

ウンヌケ *Eularla speciosa* (Debeaux) O.Kuntze

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。本地域の丘陵地を代表する植物の一つで、本地域に隔離的に分布しており、分布域の東限にあたる。

【形態】

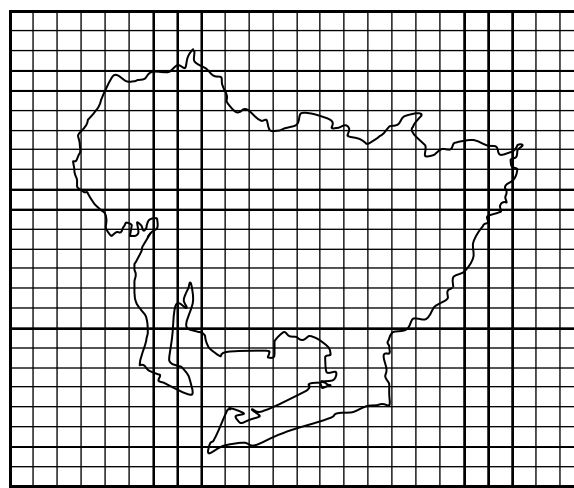
多年生草本。稈は束生して株をつくり、直立し、高さ 80~120cm、茎の基部には枯れた葉が残存し、黄褐色の毛が密生する葉鞘に囲まれる。葉は叢生し、葉身は線形、20~45cm、幅 5~8mm、葉身の基部と鞘の上部に白い毛がある。花期は 9~10 月、花序は長さ 10~15cm の枝を 4~9 本つけ、その枝に小穂が並ぶ。花序の枝は開花時には開くが、花が終わるとほとんど直立する。小穂は有柄のもの無柄のものが対になって枝につき、披針形、長さ約 5mm、毛が多く、不稔の第 1 小花と結実する第 2 小花からなり、第 2 小花の護穎には長い芒がある。種子が熟すと、花序の枝が折れて散布される。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部（芹沢 60619）、作手（小林 60371）、新城（芹沢 57378）、豊川宝飯（芹沢 60828）、豊橋北部（芹沢 68574）、田原赤羽根（芹沢 73296）、足助（芹沢 72527）、下山（芹沢 82705）、藤岡（芹沢 77665）、豊田東部（芹沢 68179）、豊田北西部（芹沢 60869）、三好（芹沢 63861）、額田（芹沢 60883）、岡崎北部（芹沢 68060）、岡崎南部（芹沢 71009）、幸田（芹沢 73295）、幡豆（芹沢 71166）、瀬戸尾張旭（芹沢 76997）、日進長久手（半田多美子 2975）、豊明東郷（芹沢 77633）、大府東浦（芹沢 60472）、東海知多（芹沢 74330）、半田武豊（芹沢 77065）、常滑（芹沢 75115）、知多南部（林 彰一 841）、小牧（芹沢 57799）、春日井（芹沢 76589）、名古屋北部（芹沢 54027）、名古屋南東部（芹沢 77732）。蒲郡（三ヶ根山、加藤等次 s.n., 1956-9-23）、豊橋南部（寺沢町、小林 23334, 1981-10-18）などで採集された標本もある。平野部や三河山にはなく、渥美半島の大部分、知多半島先端部、犬山にも生育していない。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州（静岡県西部、愛知県、岐阜県南部、兵庫県）、四国北部、九州北部。国内の詳細な分布は、野寄ほか（1997）にまとめられている。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、タイ、インド。

【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地や半裸地に生育する。やせ山の尾根すじなどのほか、谷戸田周辺の里草地にもよく生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在の所はまだ生育地も個体数も多いが、草地の減少に伴い、特に分布域の周辺部では減少傾向が著しい。

【保全上の留意点】

定期的に草刈りが行われる里草地は、多くの草地性植物の生育場所になっている。文化財としても重要な意味があり、注意して保全を図る必要がある。やせ山についてはウンヌケモドキの項（452 頁）を参照されたい。

【特記事項】

和名は牛の毛という意味で、尾張地方の方言に由来すると言われる。

【引用文献】

野寄玲児・小林禮樹・藤本義昭,1997. 兵庫県新産のウンヌケ(イネ科)の分布とその生育環境. 植物分類地理 48: 197-204.

【関連文献】

保草本Ⅲp.381、平草本Ⅰp.93、SOS 旧版 p.99+図版 12、環境庁 p.580、SOS 新版 p.86,88。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.690-691. 平凡社, 東京。

## トウササクサ *Lophatherum sinense* Rendle

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内での分布は、特定の範囲に限られている。

### 【形態】

多年生草本。稈は束生し、高さ 60～90cm になる。葉は少数が互生し、葉身は広披針形、長さ 10～30cm、幅 2～5cm、先端は鋭尖頭、葉脈は横の小脈で結ばれて方眼状になり、基部は急に細まり、短い柄状になり、葉鞘はまばらに開出毛があるか無毛、葉舌は小さい。花期は 8～10 月、円錐花序は長さ 15～30cm、枝は各節から 1 本ずつ出て分枝せず、その枝に小穂が並ぶ。小穂はゆがんだ長卵形、長さ 7～8mm で扁平、1 個の結実する小花と、数個の不稔の小花からなり、結実する小花の護穎は背面が「く」の字形にふくらむ。護穎の先端には短い芒があり、芒には下向き的小刺があって、衣服に付着する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

設楽東部（小林 60410）、鳳来北西部（芹沢 70506）、作手（小林 58199）、瀬戸尾張旭（日比野修 5481）、犬山（芹沢 71324）、小牧（日比野修 4997）。県内での分布は 2 区域に分かれており、中間の西三河ではまだ確認されていない。

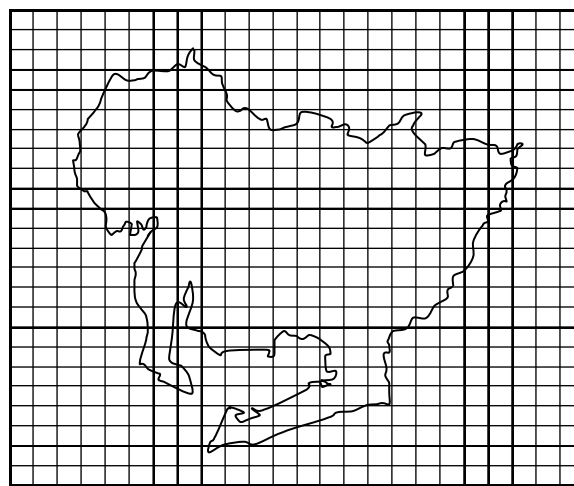
#### 【国内の分布】

本州（日本海側は新潟県西部、太平洋側は愛知県以西）、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本および中国大陸中部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地～低山地の二次林内に生育する。造林地内にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は限られているが、そこでは小群落が点在している。道路の拡幅、森林の伐採等により減少するおそれがある。

### 【保全上の留意点】

本種のような美しい花をつけない植物は、その重要性が意識されないまま、工事等により消失してしまう可能性がある。目立たない植物の中にも重要なものがあることを認識する必要がある。

### 【特記事項】

ササクサに比べ、小穂は短く、幅広く、枝にやや密に並んでつく。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.329、平草本Ⅰ p.108、SOS 旧版 p.100。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.442-443. 平凡社, 東京.

## ウキシバ *Pseudoraphis ukishiba* Ohwi

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。ため池などの水中や水辺に生育する植物で、生育できる環境が急激に減少している。

### 【形態】

多年生で浮葉性の水草。稈は束生し、水中を伸びて長さ 1m に達し、枝は斜上して水面に葉を浮かべる。葉は互生し、葉身は線形、長さ 3~5cm、幅 2~4mm、粉緑色をおび、無毛、葉鞘は葉身とほぼ同長で、小さい葉舌がある。花期は 8~9 月、花序は長さ 3~6cm、総状、基部は葉鞘の中にあつて多数の枝を出し、その枝が中軸に沿って立つため、見かけ上長楕円形となり、開花時には水上に出るが、花後水中に沈む。小穂は各枝に 1 個つき、披針形で長さ 4~5mm、枝に圧着し、雄性の第 1 小花と雌性の第 2 小花からなり、小穂の先の枝は芒状となるが、小花自体は無芒である。陸生型は茎が短く、小さいマット状になる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊川宝飯(小林 65105)、田原赤羽根(小林 72869)、渥美(小林 73015)、豊田北西部(芹沢 71302)、豊田南西部(芹沢 70753)、岡崎南部(小林 58282)、刈谷知立(芹沢 72249)、瀬戸尾張旭(鳥居ちよ子 699)、豊明東郷(浅野守彦 1967)、大府東浦(芹沢 70891)、半田武豊(福岡義洋 4641)、常滑(林 彰一 138)、犬山(芹沢 70929)、春日井(芹沢 76593)、名古屋北部(芹沢 75214)、名古屋南東部(芹沢 77571)。豊橋北部(岩田町水神池, 鳥居喜一 9873, 1949-9-25, HNSM)で採集された標本もある。

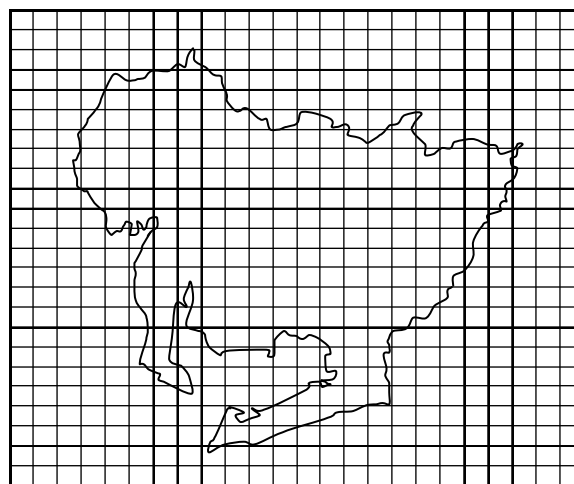
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

池沼の水中に生育するが、干上がった岸などに生育することもある。生育地は、極めてというほどではなくともそれなりに水のきれいなため池に限られている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域		○		

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

尾張とそれに接した西三河の、平野部に接した浅い丘陵地のため池には比較的多く見られるが、それ以外では極めて稀である。開発圧力の高い地域であるだけに、ため池の埋立や改修、水の汚れなどにより、生育できる場所は急激に減少している。特に、浮葉型は見る機会が減少している。

### 【保全上の留意点】

ため池を維持し、水質を保全することが必要である。西三河東部と東三河では生育地が少なく、個別的な保護を要する。

### 【特記事項】

イネ科には湿地性のものは多いが、水草になるものは少ない。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.370、平草本Ⅰp.101、SOS 旧版 p.100、SOS 新版 p.118,120。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.68. 文一総合出版, 東京。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.634-635. 平凡社, 東京。

オニシバ *Zoysia macrostachya* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。海浜性の植物で、愛知県では生育範囲が限られている。

【形態】

小型で硬質の多年生草本。根茎は砂中を長くはう。地上茎は節から出て直立し、地表近くで枝を分け、地上部は高さ 10~15cm である。葉は互生し、葉身は披針形、長さ 3~8cm、幅 2~5mm、乾けば管状になり、中央脈は不明瞭、先端は硬い針状になる。葉鞘は口部に長い毛を密生し、葉舌も毛の列となる。花期は 6~8 月、花序は穂状で長さ 3~4cm、幅 6~8mm、基部は最上葉の鞘に包まれ、小穂は長楕円形、長さ 6~8mm、幅約 2mm、左右から扁平で 1 小花からなり、芒はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部(加藤等次 7620)、田原赤羽根(小林 40409)、渥美(芹沢 79243)。

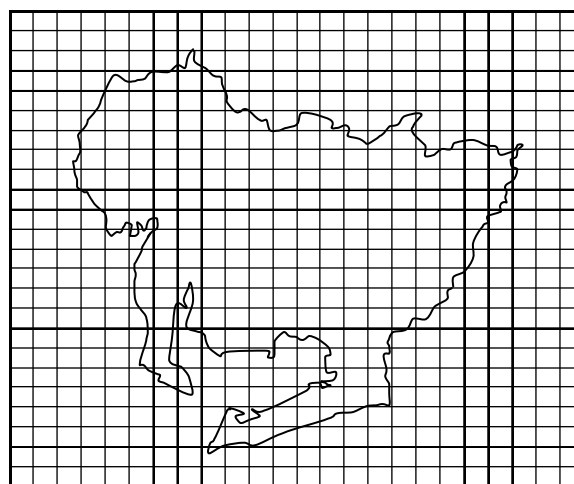
【国内の分布】

北海道(南西部)、本州、四国、九州、琉球の海岸の砂浜に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の砂地に生育し、まばらな群落を作る。今回は地下茎がつながっていると思われるものを同一個体として見積もったため、個体数階級が 2 となっている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

渥美半島太平洋側の砂浜に点在しているが、防波堤やサイクリングロードの建設、オフロード車の乗り入れなどにより減少している。

【保全上の留意点】

自然度の高い砂浜は、観光開発や護岸工事、あるいは陸地における砂防工事の進展による砂供給の停止により、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在砂浜の状態が残されている場所は、絶滅危惧種のあるなしにかかわらず、どこも注意して保全する必要がある。またオフロード車の乗り入れは砂浜の植生に甚大な影響を与えており、このような行為が行われないよう普及活動を推進する必要がある。

【特記事項】

ナガミノオニシバ *Z. sinica* Hance var. *nipponica* Ohwi は本種と異なり内湾性の植物で、愛知県では三河湾の岸に点在している。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.361、平草本Ⅰ p.102、SOS 新版 p.151,152。  
長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜 p.540-541. 平凡社, 東京。

ヤマトミクリ *Sparganium fallax* Graebn.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草である。

【形態】

挺水性の多年生草本。地中を横にはう根茎がある。地上茎は立ち、分枝せず、高さ 50~120cm になる。葉は 2 列に互生して立ち、線形、幅 8~15mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があって断面は三角状となり、下部は葉鞘となる。花期は 7~8 月、雌雄同株、茎の上部に雄性の頭状花序を 5~9 個つけ、その下に雌性の頭状花序を 3~6 個つける。雌性頭状花序の柄は主軸と融合して腋上生となり、下部のもの以外は無柄に見える。雌性花序は球形、果期には直径 15~20mm になり、果実は紡錘形、長さ 5~6mm、中央部がくびれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽東部（芹沢 83018）、渥美（小林 45153）、瀬戸尾張旭（日比野修 4620）、日進長久手（芹沢 78036）、小牧（日比野修 4847）、春日井（日比野修 3140）、名古屋北部（芹沢 82964）。豊川宝飯（一宮町豊津中島、鳥居喜一 9283, 1989-10-12, HNSM）にもあったが絶滅した。

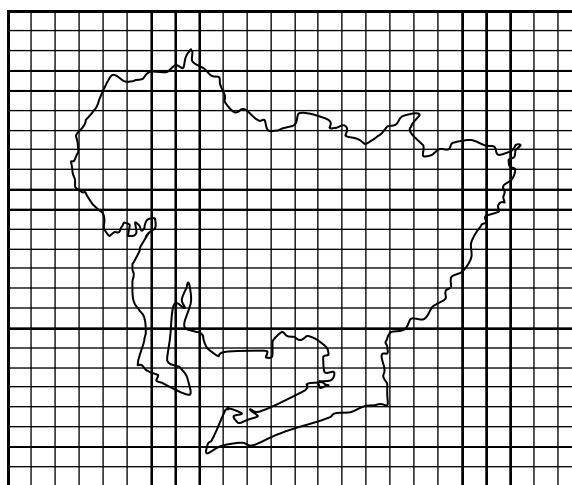
【国内の分布】

本州、四国、九州に生育するが、西日本に多い。

【世界の分布】

東アジア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

池沼や水路などの浅い水中に生育するが、止水域に多い。愛知県では、丘陵地の中の小規模なため池や、砂防ダムによってできた小池などに生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○		

【現在の生育状況 / 減少の要因】

尾張北西部の丘陵地には小群落が点在するが、開発圧力の高い場所だけに、造成等により生育地が消失する可能性も高い。開発に伴う環境影響評価のための調査で新たな生育地が発見された事例も目立つ。東海環状自動車道建設の際にも自生地の一つが破壊され、その場所にあった個体は隣接する他の自生地に移植された。しかしこのような移植は、いかに注意して行っても、移植先の自生地を攪乱する。つまり、ある意味では二重の自然破壊であり、本質的に保全対策にはならない。どうしても移植するなら、ミコシギクの事例（116 頁）のように新しく生育できる場所を創出し、そこに植えるべきである。尾張北西部以外の場所では極めて稀で、特に西三河ではまだ確認されていない。豊川宝飯では、水路の改修により絶滅したそうである。

【保全上の留意点】

生育地を、その周辺の地形を含めて保全することが必要である。特に設楽東部と渥美の自生地については、個別的な保全が望ましい。

【特記事項】

最下の雌性花序は、しばしば次の苞と対生するほど腋上性になる。

【関連文献】

保草本Ⅲp.420、平草本Ⅰp.142、SOS 旧版 p.103+図版 22、環境庁 p.586、SOS 新版 p.122-124。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.80. 文一総合出版, 東京。

イトテンツキ *Bulbostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい、半裸地に生育する小型の草本である。

【形態】

1年生草本。匍匐枝はない。茎は束生し、糸状で細く、無毛、高さ 8~20cm になる。葉は叢生し、茎より短く、糸状、幅 0.3~0.5mm、先端は細く尖り、基部は鞘となる。花期は 8~10 月、花序は茎の先端に頂生し、葉状の苞があり、栗褐色の小穂を頭状につける。小穂は狭卵形、長さ 3~5mm、鱗片の先端は鋭頭であるが、芒状にはならない。果実は広倒卵形、長さ約 0.8mm、3 稜がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手 (小林 53496)、新城 (芹沢 79533)、豊橋北部 (芹沢 71298)、豊田南西部 (落合鈴枝 992)、額田 (小林 53449)、安城 (小林 67043)、日進長久手 (芹沢 63975)、豊明東郷 (浅野守彦 755)、祖父江 (渡辺幸子 5414)。

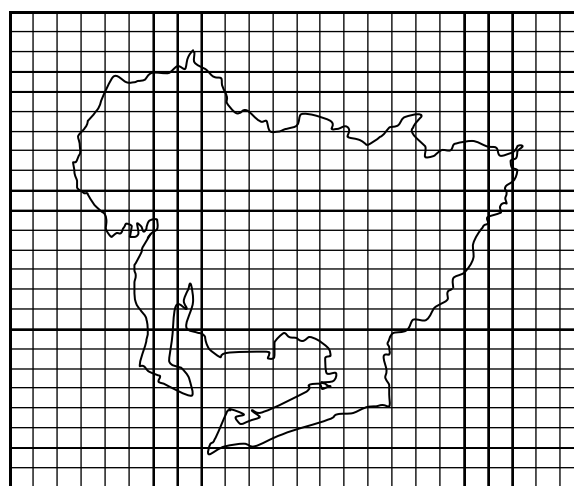
【国内の分布】

本州 (東海地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本のほか、インドネシアに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい半裸地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所も小群落である。1年生草本であるため、個体数は年によってかなり変動する。生育地はいずれも軽度の攪乱を受ける場所であり、一方で開発等による破壊、他方で遷移の進行による大型草本の繁茂により消滅する可能性がある。メリケンカルカヤなどの帰化植物の増加によっても、影響を受けている。

【保全上の留意点】

本種のような植物の場合、存続のためには適度な攪乱が必要である。過度の攪乱があっても、攪乱がなくても消滅してしまうと思われる。

【特記事項】

基準変種のイトハナビテンツキは花序の枝が伸びるもので、北海道~九州に生育しており、愛知県でも比較的多い。

【関連文献】

保草本Ⅲp.238、平草本Ⅰp.173、環境庁 p.587。



チャシバスゲ *Carex caryophylla* Latour. var. *microtricha* (Franch.) Kükenth.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。北日本系の植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。長い匍匐枝を出し、時に小さい株になる。茎は高さ 10~40cm、3稜があり、基部の葉鞘は濃褐色でやや繊維状になる。葉は細い線形、あまり長くなく、幅 2~3mm である。果期は 5~7 月、小穂は 2~4 個、頂小穂は雄性、倒披針形で長さ 1~2cm、側小穂は雌性で長楕円形、長さ 0.7~2cm、直径 3~4mm、短い柄がある。苞は葉状で、最下のものの基部は長さ 3~10mm の鞘となる。果胞は楕円形、長さ約 3mm、まばらに短い軟毛があり、嘴はごく短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

一宮木曾川 (小林 63866)、祖父江 (渡辺子 3784)、海部西部 (芹沢 74597)。

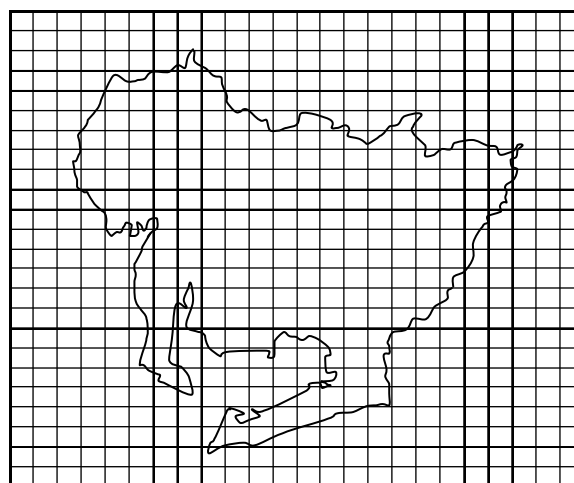
【国内の分布】

北海道および本州 (中北部)。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島。種としてはユーラシア大陸北部に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸および山地の草原に生育する。愛知県では木曾川の高水敷や堤防に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内の生育地は限られており、個体数も多いものではない。過去の状況はわからないが、河川敷の開発や堤防の改修により減少していると思われる。

【保全上の留意点】

河川の堤防は、平野部では僅かに残された草地性植物の生育地である。改修工事等に当たっては、十分な事前調査と保全対策が望まれる。

【特記事項】

シバスゲ *C. nervata* Franch. et Sav. に似ているが、全体にやや大型で、鱗片が栗褐色である。目立たない植物なので、注意して探索すれば更に生育地が追加される可能性がある。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.276、平草本Ⅰ p.160。  
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.247. 文一総合出版, 東京..

## キノクニスゲ *Carex matsumurae* Franch.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 3。暖地性の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地が少ない。

### 【形態】

常緑性の多年生草本。匍匐枝はなく、大きな株を作る。茎は高さ 30~40cm、3稜があり、基部の葉鞘は淡褐色で、後に著しく暗色の繊維に分解する。葉は線形、やや硬く光沢があり、幅 8~12mm である。果期は 3~5 月、小穂は 4~5 個、頂小穂は雄性、線形で長さ 3~5cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 2.5~3.5cm、直径約 7mm、短い柄があり、先端部にはしばしば少数の雄花がつく。苞は小さい葉状で、長い鞘がある。果胞は紡錘状楕円形、長さ 4~5mm、無毛、短い嘴がある。雌花の柱頭は通常 2 個である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

蒲郡御津(井上美保子 442)、田原赤羽根(小林 74602)、幡豆(芹沢 81377)、知多南部(芹沢 81298)。県内の自生地はほとんど三河湾内の小島に限られており、島以外では幡豆町東幡豆と田原市浦で採集されているだけである。

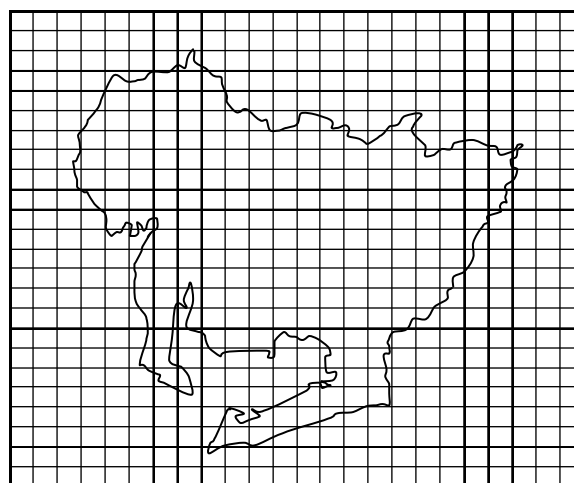
#### 【国内の分布】

本州(日本海側は富山県、太平洋側は愛知県以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の海岸近くの常緑広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は限られているが、そこでの個体数は比較的多い。今までは三河湾の観光開発により大きな影響を受けてきたが、近年は事業の撤退もあり、小康状態である。

### 【保全上の留意点】

本種は美しい花が咲く植物でないため、社寺林として保護されている場所では、目障りなものとして除去されるおそれがある。貴重な植物であることを認識する必要がある。また無人島では、現状のままならば、将来とも存続できるものと思われる。再開発等を企画する場合には、特に注意が必要である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.273、平草本Ⅰp.158、SOS旧版p.104、環境庁p.593。  
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.155. 文一総合出版, 東京..

ホソバカンスゲ *Carex morrowii* Boott var. *temnolepis* (Franch.) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 2。日本海系の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。匍匐枝はなく、株を作る。茎は高さ 25～40cm、3稜があり、基部の葉鞘は褐色で多少繊維に分解する。葉は線形、長さ 20～40cm、幅 3～6mm、辺縁は上半部に上向きの微少な鋸歯があり、基部は逆方向にざらつく。果期は 5 月、小穂は 3～5 個、下方のものは互いに離れ、頂小穂は雄性、線形で長さ 2.5～4.5cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 1.5～3cm、最下のものには長い、上部のものにはやや短い柄がある。カンスゲに比べて葉が細く、またカンスゲでは頂芽が伸長し続けるのに対し本変種は花茎が形成されて仮軸分枝する。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部。段戸山裏谷（芹沢 81430）に大きな群落があり、本谷（小林 51792）でも採集されている。

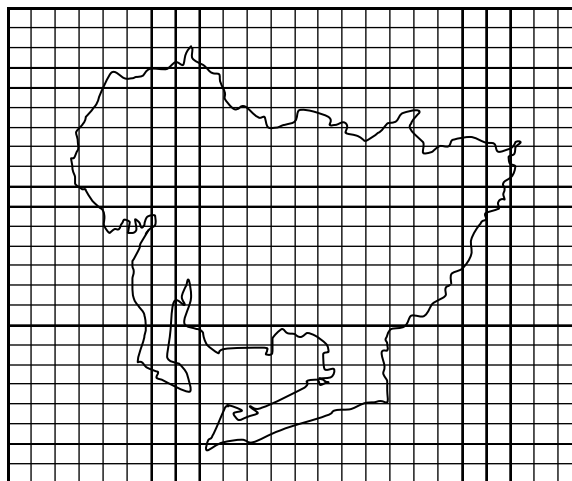
【国内の分布】

本州（岩手県、東北地方南部～兵庫県の日本海側、愛知県）。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内に生育する。愛知県の場合、段戸山裏谷では沢沿いのモミと落葉広葉樹の混交林内にカンスゲと混生して生育している。本谷ではブナ、ミズナラの二次林やスギ造林地内に生育しているという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭いが、そこでの個体数は多い。裏谷は学術考証林として保護されており、過去から大きな変化はなく、将来もそのまま維持されると思われる。本谷の自生地は自然林が伐採された時に大きな影響を受けたはずであるが、その後やや回復して現在に至っているものと思われる。しかし今後は、造林地の手入れ不足による被陰のため、減少する可能性がある。

【保全上の留意点】

日本の造林地は、木材価格の低迷のために手入れがされず、全体に荒廃が進んでおり、間伐など適切な管理につとめる必要がある。また、造林地を自然林に戻す方策も検討する必要がある。

【特記事項】

本変種の同定は、神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男氏による。レッドデータブックあいち 2001 植物編ではスルガスゲとして収録したが、誤同定であった。

【関連文献】

平草本 I p.158.  
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.192. 文一総合出版, 東京.

## キシウナキリスゲ *Carex nachiana* Ohwi

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向が著しい暖地性の植物で、愛知県では生育範囲が限られている。

### 【形態】

常緑性の多年生草本。匍匐枝はなく、株を作る。茎は高さ 80～120cm、3 稜があり、基部の葉鞘は黒褐色で、繊維に分解する。葉は細い線形、幅 3～4mm である。果期は 9～10 月、小穂は多数つき、いずれも雌雄性、有柄、線状楕円形、長さ 1.5～3cm、先端部には雄花、中下部には雌花がややまばらにつく。苞は小さい葉状、基部は長い鞘となる。果胞は長卵形、長さ 3.5～4.5mm、辺縁に短い刺状毛があり、先端は次第に細まってやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

蒲郡 (小林 80489)、御津 (小林 80303)、豊橋北部 (小林 65330)、豊橋南部 (小林 40393)、田原赤羽根 (芹沢 57650)、渥美 (芹沢 83626)、知多南部 (芹沢 82781)。

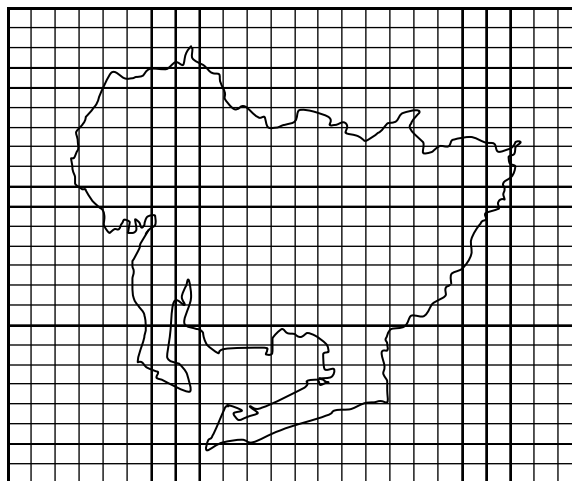
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの丘陵地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		○
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

渥美半島には比較的多い。しかし、農地開発や産業廃棄物処分場の建設などにより海岸近くの森林が荒廃しており、林内の本種も減少している。

### 【保全上の留意点】

海岸部の森林を保全することが必要である。

### 【特記事項】

ナキリスゲ類の中では最も大型の種である。ただし草地などに生える場合は、高さ 30cm 程度になってしまうこともある。キシウナキリとも呼ばれる。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.279、平草本Ⅰ p.152、SOS 旧版 p.105、環境庁 p.388、SOS 新版 p.147,149。  
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.86. 文一総合出版, 東京..

## ジングウスゲ *Carex sacrosancta* Honda

### 【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的にやや希少な植物である。総点は 10 であるが、全国的状況と無視されやすい植物であることを考慮し、準絶滅危惧と評価する。

### 【形態】

常緑性の多年生草本。匍匐枝はなく、小さい株を作る。茎は高さ 20~50cm、3稜があり、基部の葉鞘は淡褐色~褐色で、繊維に分解する。葉は細い線形、幅 1.5~2.5mm である。果期は 9~10 月、小穂は 4~6 個つき、いずれも雌雄性、有柄、線状楕円形、長さ 1~2.5cm、先端部には雄花、中下部には雌花がまばらにつく。苞は刺状~小さい葉状、基部は長さ 0.7~1.5cm の鞘となる。果胞は紡錘状卵形、長さ約 4mm、脈上にまばらに短い刺状毛があり、先端はやや長い嘴となる。雌花の柱頭は 2 個である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

設楽東部 (小林 53621)、鳳来北東部 (小林 40122)、鳳来南部 (小林 22288)、新城 (小林 40189)、豊川宝飯 (小林 39600)、豊田東部 (小林 62161)、豊田北西部 (山崎玲子 1635)。

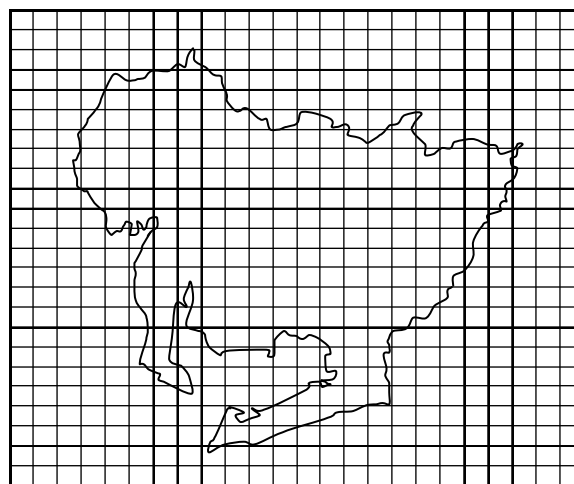
#### 【国内の分布】

本州 (伊豆諸島以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本および台湾。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の林内や林縁に生育する。スギ造林地内にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

全国的に見ればやや少ない植物であるが、東三河中部の山地には比較的多く、沢沿いの林内や林縁に点在している。

### 【保全上の留意点】

造林地内に生育するものについては、間伐など適切な管理が必要である。

### 【特記事項】

ナキリスゲ類の 1 種で、全体に小型で、果胞がまばらにつくことが特徴である。ヒメナキリスゲとも呼ばれる。和名は、伊勢神宮で最初に発見されたからである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.276、平草本 I p.152、SOS 旧版 p.106、環境庁 p.598、SOS 新版 p.27,29。  
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.88. 文一総合出版, 東京..

ヌマガヤツリ *Cyperus glomeratus* L.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。低湿地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

1年生草本。茎は太く、単生または少数束生し、高さ 40~90cm、下部は濃褐色の葉鞘に包まれる。葉身は線形、幅 3~7mm である。花期は 9~10 月、花序の枝は長さ 3~10cm であるが、小型の個体では出ないこともあり、苞は 3~4 個で葉状、花序よりも長い。小穂は密集して長卵形で長さ 3~4cm の花穂をつくり、その花穂が花序の枝の先端に 3~5 個つく。小穂は線形、長さ 5~10mm、茶褐色、扁平、10~20 個の花からなり、鱗片は長楕円形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山（小林 54019）、豊川宝飯（小林 76414）、蒲郡（小林 80333）、瀬戸尾張旭（村松正雄 16788）。木曾三川下流部にもありそうだが、現在のところ確認できない。

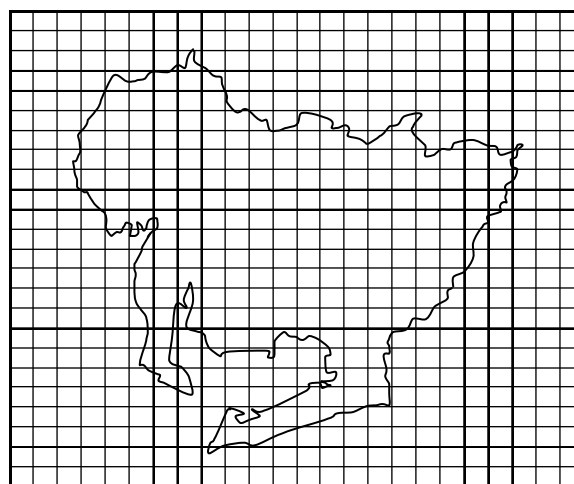
【国内の分布】

本州に生育する。関東地方利根川水系の河川敷には比較的多いが、他ではあまり見られない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール、インド、ヨーロッパに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷や池沼の周辺などの低湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

富山では、佐久間湖に堆積した土砂でできた低湿地状の場所に小群落があった。豊川宝飯は碎石場調整池、蒲郡は埋立地に生育していたという（小林, 2004）。瀬戸尾張旭では休耕田に 1 株生育していただけで、その場所は現在では耕作が再開されており、周辺の他の場所でも確認できない。

【保全上の留意点】

愛知県では完全に定着しているとは言い難い植物で、既知の生育地はいずれも二次的に形成された場所である。生育地の個別的な保全は難しく、また無理に保全してもそこで長期的に存続するという保証はない。このような植物の場合は、発見したらなるべく完全な標本を作成し、分布情報の蓄積を図るべきである。その一方で、低湿地的な環境を全体として保全し、本種が安定して生育できるような場所を確保することも重要である。

【特記事項】

1 年生であるが大型のカヤツリグサで、茶褐色の密な花穂が特徴である。今後他の場所でも生育が確認される可能性がある。

【引用文献】

小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.67, 200. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.245、平草本Ⅰp.183.

シラン *Bletilla striata* (Thunb.) Reichb.f.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。愛知県では生育地が少ない。観賞用に広く栽培される植物で、丘陵地の土手や原野状の場所に生育しているものはほとんどが栽培品の逸出と思われ、これらは評価の対象外である。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 30~70cm になり、基部はふくらんで扁平で直径 2~4cm の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に数個つき、披針形、長さ 20~30cm、幅 2~5cm、先端は鋭尖頭、下部は次第に細まり、基部は葉鞘となり、辺縁は全縁、硬い草質、無毛である。花期は 4~5 月、花はやや大型で茎の先端に 3~7 個つき、紅紫色、苞は長楕円状披針形で開花時に脱落する。がく片と側花弁は長楕円形、長さ 2.5~3cm、幅 6~8mm、やや鋭頭である。唇弁はくさび状倒卵形、先端は浅く 3 裂し、中裂片は円形で辺縁は波状、内面に 5 個の隆起線がある。果実はさく果で長楕円形、長さ 3~3.5cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

確実に自生と思われるものは、鳳来北東部(小林 51100)、鳳来南部(小林 51073)、新城(芹沢 60959、石川静雄 141-シロバナシラン)だけに生育している。

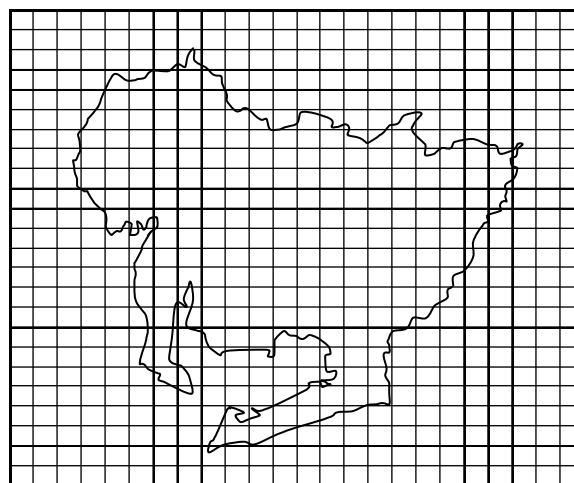
【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

川岸などの湿った岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

範囲は限られているが、そこでは個体数は比較的多い。急峻な地形の場所には、まだかなり大きい群落が残存している。かつては園芸目的で相当採取されたものと思われる。しかし現在では、普通に栽培される植物になったため、危険を冒してまで採取しようとする人は少なく、小康状態である。

【保全上の留意点】

生育地は、当面開発が想定されるような場所ではない。前項に述べたような事情で近年に限れば小康状態であるが、それでも念のため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

白花品のシロバナシランも稀に混生している。

【関連文献】

保草本Ⅲp.48、平草本Ⅰp.217。

ミヤマムギラン *Bulbophyllum japonicum* (Makino) Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する着生植物で、伐採等の影響を受けやすい。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は細く、横にはい、卵球形の偽球茎をまばらにつらね、その上に 1 個の葉をつける。葉は披針形、長さ 4~8cm、幅 6~10mm、先端は鋭頭、葉質は革質である。花期は 6~7 月、偽球茎の基部から長さ 2cm 程度の花茎を出し、その先端に紅紫色の花を数個散状につけ、苞は披針形、長さ 1~2mm である。背がく片は長楕円形で長さ約 3mm、側がく片は広披針形で長さ約 8mm、基部には隙間があるが、先端は長く尖って互いに接着する。側花弁は卵形、背がく片より短く、唇弁は厚く、長さ約 3mm、濃紫紅色、ずい柱の前で前方に湾曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 52089)、豊根 (加藤等次 3497)、鳳来北東部 (加藤等次 1094)、鳳来北西部 (小林 46278)、新城 (小林 49737)。

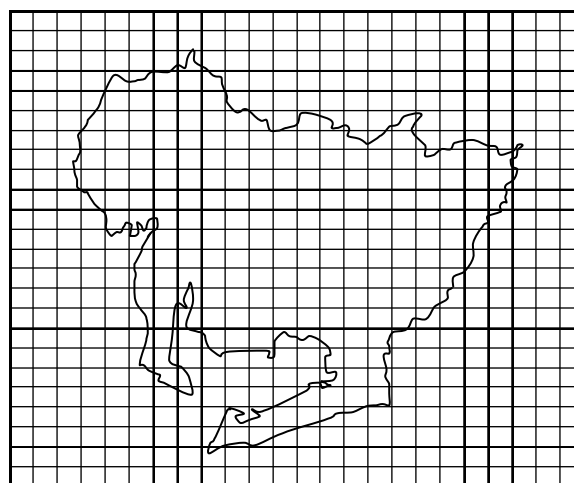
【国内の分布】

本州 (中部地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および台湾。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の樹幹や岩上に着生する。愛知県の生育地は全て岩上である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小群落が点在するだけである。生育地はいずれも開発が想定されるような場所ではないが、山草愛好家に発見されれば持ち去られる可能性が高い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ムギランに比べ、葉は長く、先が尖る。

【関連文献】

保草本Ⅲp.60、平草本Ⅰp.231。



## エビネ *Calanthe discolor* Lindl.

### 【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有度階級 2。明るい林内に生育するラン科植物で、全国的にも愛知県でも園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

### 【形態】

多年生草本。茎は高さ 30~45cm になり、基部はふくらんで球状の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に 2~3 個つき、長楕円形、長さ 15~25cm、幅 5~8cm、先端は鋭頭、無毛、このほか茎上に 1~2 個の鱗片葉がつく。花期は 4~5 月、花は茎の上部にややまばらに 8~15 個つき、通常紫褐色、苞は披針形、長さ 3~6mm で、膜質である。がく片は狭卵形、長さ 15~20mm、幅 4~5mm、側花弁はがく片よりやや幅が狭い。唇弁は扇形で 3 深裂し、幅 14~18mm、帯紅色または白色、中裂片はくさび形で先端は 2 裂し、うね状の条が 3 本ある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

鳳来北東部 (小林 51519)、鳳来南部 (芹沢 58536)、新城 (芹沢 58509)、豊川宝飯 (小林 42039)、豊橋北部 (芹沢 64715)、田原赤羽根 (瀧崎吉伸 24376)、渥美 (小林 42597)、稲武 (小林 37632)、旭 (塚本威彦 574)、足助 (深見 弘 156)、小原 (日比野修 2089)、藤岡 (日比野修 1062)、豊田東部 (山崎玲子 1401)、豊田北西部 (山崎玲子 1410)、額田 (小林 56659)、瀬戸尾張旭 (日比野修 271)、知多南部 (花井隆晃 2161)、犬山 (村松正雄 807)。標本は作成しなかったが、作手でも見たことがある。

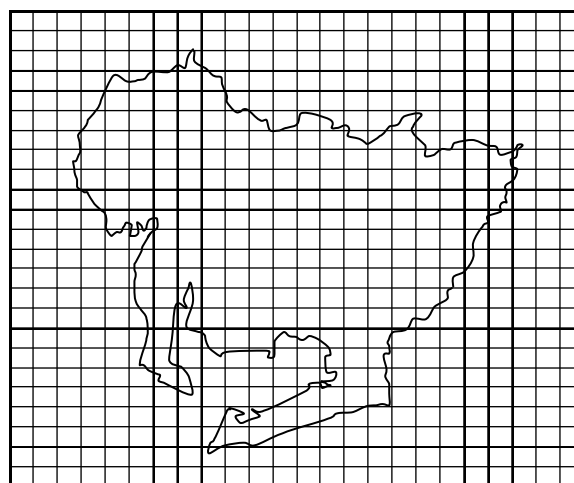
#### 【国内の分布】

北海道 (南部)、本州、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本および済州島。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地~低山地の林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつては丘陵地の二次林内などにごく普通に見られる植物であったが、いわゆるエビネブームで徹底的に乱獲され、激減した。もともとが普通種であったため、現在でもまだかなりの区画に生育しているが、どの区画でも目につきにくい場所に辛うじて残存しているだけである。

### 【保全上の留意点】

現在では一時の熱狂的なエビネブームは去っているが、それでも園芸目的の採取圧は強く、見つければすぐ掘り取られるという状態は継続している。分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込もうとする発想が問題で、山草園芸のあり方自体を見直させるような施策が必要である。

### 【特記事項】

和名は、横に並んだ偽球茎をエビに見立てたものである。花弁の形状や色彩に変異が多く、アカエビネ、ヤブエビネ、ダイダイエビネなど、いろいろな品種が知られている。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.55、平草本Ⅰp.224、SOS旧版p.109+図版5、環境庁p.610、SOS新版p.79,81。

## キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。明るい林内に生育する植物で、全国的にも愛知県でも園芸目的で採取されることが多く、減少傾向が著しい。

### 【形態】

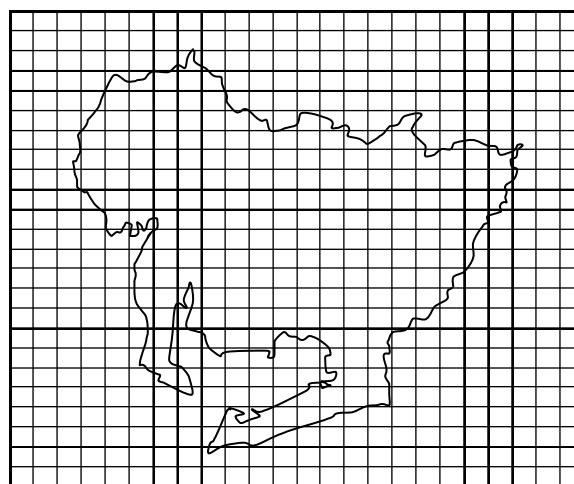
多年生草本。茎は直立し、高さ 30～70cm になる。葉は 6～8 個が互生し、広披針形、長さ 8～15cm、幅 2～4cm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、平滑で縦脈が目立つ。花期は 4～6 月、花は茎の上部に 3～12 個つき、黄色、苞は 3 角形で長さ約 2mm、膜質である。がく片は卵状長楕円形、長さ 14～17mm、先端は鈍頭、側花弁は長卵形で、がく片よりやや短い。唇弁の基部はふくらんで短い距となり、舷部は 3 裂し、側裂片は 3 角状卵形でずい柱を抱き、中裂片は円心形で内面に数本の隆起条がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

鳳来北東部 (加藤等次 3091)、新城 (芹沢 65036)、豊川宝飯 (小林 36789)、蒲郡 (芹沢 78596)、豊橋北部 (芹沢 64708)、田原赤羽根 (小林 42479)、小原 (塚本威彦 980)、藤岡 (日比野修 1132)、豊田東部 (佐藤久美子 428)、岡崎北部 (中西普佐子 761)、幡豆 (壁谷重美子 443)、瀬戸尾張旭 (塚本威彦 538)、日進長久手 (半田多美子 223)、犬山 (山田果与乃 307)、春日井 (山田果与乃 677)、名古屋南東部 (中島ひろみ 913)。富山、津具、東栄などにもあるという (小林, 2006)。稲武 (黒田ダム, 加藤等次 s.n., 1967-6-18)、豊橋南部 (天伯町, 鳥居喜一 12334, 1949-5-22, HNSM)、足助 (西樫尾, 大原準之助 s.n., 1966-5-11)、豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 287, 1958-5-19) など で採取された標本もある。

要配慮地区図



#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地～山地の明るい落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつてはエビネと共に丘陵地の二次林内に普通に見られる植物であったが、遷移の進行や開発に加えて花が黄色で目立つため乱獲され、激減した。もともとが普通種であったため、現在でもまだかなりの区画に生育しているが、どの区画でも偶然行き当たるとい程度の頻度で残存しているにすぎない。

### 【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。ただし本種の場合は、好事家の意図的な採取よりもむしろ一般人の行きずりの採取の影響が大きい。自然物は公共の資産であり、個人の庭に取り込んではいならないという意識を、できるだけ多くの人に持ってもらうことが必要である。

### 【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.241. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.29、平草本Ⅰp.207、環境庁 p.612、SOS 新版 p.78,80.

ササバギンラン *Cephalanthera longibracteata* Blume

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。やや山地性のラン科植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、やや細く、高さ 30～50cm になる。葉は 6～8 個が互生し、卵状披針形、長さ 7～15cm、幅 1.5～3mm、先端は鋭尖頭、基部は茎を抱き、裏面と辺縁には茎の上部と共に白色の短毛状突起がある。花期は 5～6 月、花は茎の先端部にまばらに数個つき、白色、平開せず、苞は線形、下部の 1～2 個は花序より長い。がく片は披針形、長さ 11～12mm、鋭頭、側花弁はがく片より短く、幅が広い。唇弁の基部は筒状の距となり、唇部は 3 裂し、中裂片は心形、中央内面に淡黄褐色の隆起条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山(小林 52027)、豊根(加藤等次 3161)、足助(芹沢・水野 170)。津具、東栄、稲武などにもあるという(小林, 2006)。

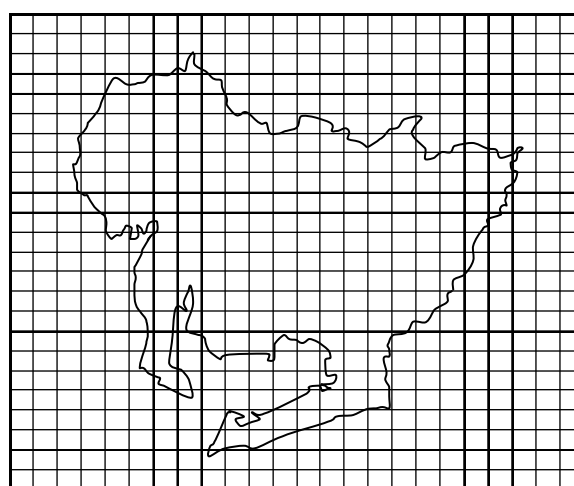
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するがどの場所でも個体数が少なく、偶然行き当たるとい程度の頻度で生育しているだけである。森林の伐採等による自然環境の全体的な劣化で、いつの間にか消滅してしまうおそれがある。園芸目的で採取されることもある。

【保全上の留意点】

出現頻度の低い植物であるため、効果的な保全対策は立てにくい。山地の自然林や自然度の高い二次林を全体的に保全することが必要である。

【特記事項】

ギンランに比べ、植物体が大きく、苞が長い。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.241. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.30、平草本Ⅰp.207.

イチヨウラン *Dactylostalis ringens* Reichb.f.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。山地の林内に生育するラン科植物で、愛知県では個体数が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短くはい、その先端に 1 個の葉をつける。葉は長さ 1~4cm の柄があり、葉身は卵円形、長さ 3~6cm、幅 3~4cm、先端は鈍頭、肉質で葉脈は目立たない。花期は 5~7 月、花茎は高さ 10~20cm で 2~3 個の鱗片葉があり、花はその先端に 1 個つき、苞は四角状楕円形、長さ 2~3mm である。がく片および側花弁は倒披針形、長さ 2~2.5cm、先端はやや鈍頭、淡緑色で紫色の斑点がある。唇弁は卵形、ほぼ中央で 3 裂し、白色、側裂片は広卵形でずい柱を囲み、先端は紫色、中裂片は倒広卵形、長さ、幅とも 7~10mm、紫色の斑点があり、基部に 2 条の隆起条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 44855)、津具 (小林 42898)、稲武 (芹沢 75556)、設楽西部 (芹沢 54689)、作手 (小林 53001)、豊川宝飯 (小林 50532)、旭 (塚本威彦 517)。鳳来南部 (上吉田浅間山、小林 24988, 1983-4-26) で採集された標本もある。

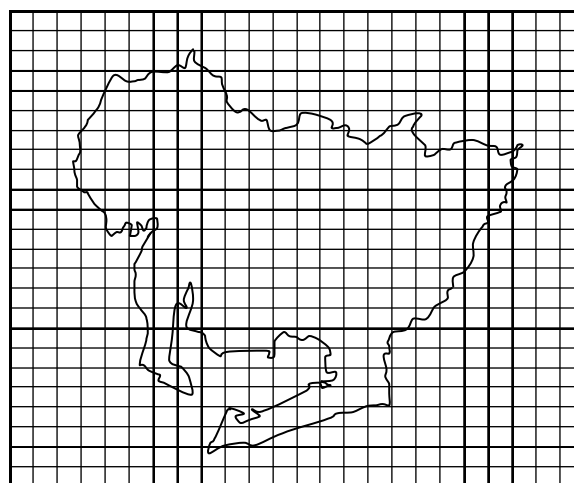
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部および日本。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の針葉樹林内や落葉広葉樹林内に生育する。通常は沢沿いの湿った場所に見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は極めて少ない。森林の伐採や園芸目的の採取により、減少傾向にある。出現頻度が低いため、はっきり認識できないうちに消滅する恐れがある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

日本固有の、1 属 1 種の植物である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.58、平草本Ⅰp.228。

セッコク *Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。着生性のラン科植物で、園芸目的の採取により減少している。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎はごく短い。地上茎は束生し、円柱形、高さ 5~25cm になり、数年残存するが古いものには葉がない。葉は数個が互生し、披針形、長さ 4~7cm、幅 7~15mm、やや光沢があり、先端は鈍頭、基部は鞘となって茎を包む。花期は 5~6 月、花は古い茎の上部の節に 1~2 個つき、白色またはわずかに淡紅色を帯び、苞は楕円形、長さ 2~2.5mm である。背がく片は披針形、長さ 2~2.5cm、鋭頭、側がく片はやや幅広く、基部が斜めに広がり距状となり、側花弁は背がく片と同形でやや短い。唇弁は卵状長三角形、側花弁とほぼ同長である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（加藤等次 4414）、設楽西部（小林 44090）、設楽東部（芹沢 82060）、鳳来北東部（山崎玲子 1584）、作手（小林 52473）、新城（小林 55911）、豊田東部（山崎玲子 2673）、額田（原田 勉 422）、犬山（芹沢 53764）。

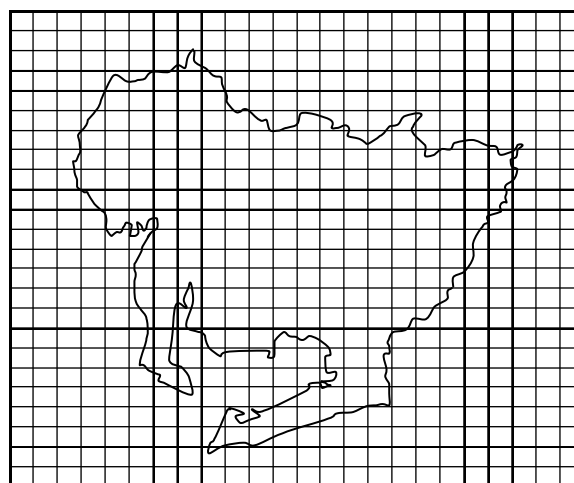
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島南部、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

岩上や樹上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河の山地には点在するが、手が届く範囲のものはほとんど園芸目的で採取されてなくなっている。台風の後などに多量に落下していることがあるので、急峻な地形の場所や高い木の上にはまだかなり残存していると思われる。しかしそのような場所のものは夏の乾燥化の影響を受けやすく、その点で衰退が懸念される。西三河と尾張では、偶然発見されたという程度の頻度で生育しているだけである。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、漢名の音読みである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.61、平草本Ⅰp.231。

オオヤマサギソウ *Platanthera sachalinensis* Fr. Schm.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。山地性のラン科植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。根はやや肥厚する。茎は直立し、僅かに稜があり、高さ 40~60cm になる。葉は互生し、通常 2 個が大きく、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 10~20cm、幅 4~7cm、先端は鈍頭、基部は次第に細まり、葉鞘となる。上部の葉は急激に小さくなり、鱗片葉となる。花期は 7~8 月、花は茎の上部の穂状花序に多数がやや密につき、緑白色、苞は線状披針形で花よりやや長い。背がく片は卵形、長さ 3~3.5mm、先端は鈍頭、側がく片は斜卵形、長さ 4~5mm、側花弁は長さ約 3mm である。唇弁は広線形、長さ 5~7mm、距は細く、長さ 15~20mm、湾曲して下垂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（芹沢 49218）、津具（小林 45479）、設楽西部（小林 45806）、稲武（塚本威彦 2683）、足助（山崎玲子 2196）。

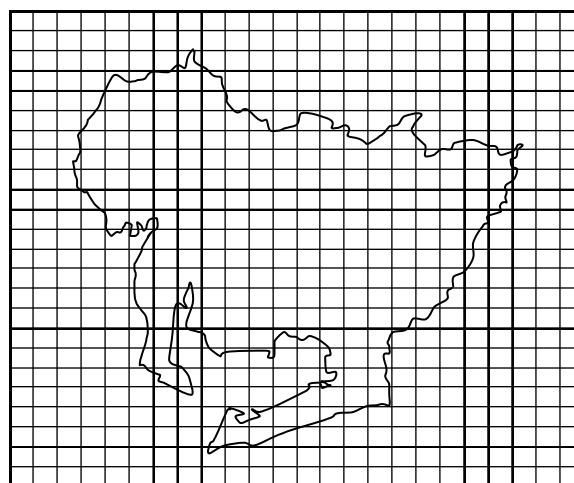
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林内や湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。山間部の湿地の開発や遷移の進行により減少している。それほど花の目立つ植物ではないが、それでもラン科ということではしばしば持ち去られる。

【保全上の留意点】

山間部の小湿地を保全することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.20、平草本Ⅰp.197。